

瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造

香川県内の主に東部島嶼地域の社会と文化の変化に関する調査研究

瀬戸内国際芸術祭の住民評価とその規定因

室井 研二

瀬戸内国際芸術祭（以下、芸術祭と略）は、2010年7月19日～10月31日の105日間にわたり備讃瀬戸の島々を舞台に開催されたアートプロジェクトである。それまで世間の注目を集めることなどほとんどなかった過疎の離島に予想を大幅に上回る93万人もの観光客が押し寄せ、この年の香川県は芸術祭フィーバーに沸いた。芸術祭は離島の住民生活にどのような影響を投げかけたのか。また住民はそれをどう評価しているのか。イベント会場となった離島の住民を対象に実施した意識調査のデータを用いて実証的に検証し、芸術祭の成果と課題について検討することが本稿の目的である。

1. 評価の観点

まず、芸術祭を評価する際の観点について整理しておきたい。

第1は、芸術作品展としての評価である。このことはアートプロジェクトという事業の性格上いうまでもないことであるが、今回の芸術祭には世界の一線で活躍する著名なアーティストが国内外（18の国と地域）から75組も参加した。大都市圏とくらべると芸術作品の鑑賞機会が乏しい地方で、これほど大規模で質の高いアートイベントが開催されるのは異例のことであった。また、この芸術祭では現代アートを地域の歴史や文化の表現媒体として位置づけ、その地域に固有のサイトスペシフィックな作品展示が目指された。現代アートと離島という、最先端の表現様式と伝統的な風物の組み合わせという点でも話題性があり、多くの社会的注目を集めた。なお、瀬戸内国際芸術祭のこの芸術作品展としての魅力は主に観光客に向けてアピールされたものであるが、開催地となった離島の住民にとっても同様にあてはまるものと考えることができる。

第2に、地域づくり事業としての評価である。今回の芸術祭では、芸術作品の鑑賞機会の提供のみならず、アートを用いて地域を活性化することが目指された。このような志向性は芸術祭の総合プロデューサー福武總一郎氏（直島福武美術館財団理事長）や総合ディレクター北川フラム氏（女子美術大学教授）の価値観や信念に依るところが大きい。福武氏は、瀬戸内海の景観そのものを1つの芸術作品として世界にアピールし文化的な交流拠点としたという考えから、1980年代後半から香川県直島で古民家をアートに見立てた「家プロジェクト」、安藤忠雄が設計の指揮を執ったベネッセハウスや地中美術館の建設など、数々の

芸術文化活動を手がけてきた。北川氏も「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」をプロデュースするなど、アートを通して地方の価値を再発見しようとする試みを精力的に実践してきた人物である。彼らの発案で、今回の芸術祭では現代アートの展示だけでなく地域の伝統文化や行事と関連したイベントが数多く開催された。アート作品の制作過程は住民に公開され、作品によっては住民への制作協力が積極的に呼びかけられた。ボランティア（「こえび隊」）の動員にも力が入れられ、作品の管理や紹介は基本的に彼/彼女らに委ねられた。芸術祭の運営に関わったこえび隊の人数は実働 800 人、延べ 8500 人にのぼっている¹⁾。

このように今回の芸術祭では芸術作品の展示のみならず、離島や海（瀬戸内海）の魅力を発信すること、島民と島外の人々（観光客、アーティスト、ボランティア）との交流を生みだして島を活気づけることに力が注がれた。その意味で、今回の芸術祭は単なる興行的な利害関心には還元できない、地域づくりへの志向性を明確に有していた。もっとも、芸術祭が標榜した地域づくりと、従来の離島振興事業との異同や関連はどのようなものなのかは、イベント主催者や住民の間で認識が複雑に分かれる点である。このことについては後述することにした。

第3は、観光事業としての経済的評価である。今回の芸術祭は福武氏の発案ではじまったものであるが、事業の実施にあたって各種行政機関、経済団体を中心に45団体から構成される大規模な瀬戸内国際芸術祭実行委員会が結成された（表1）。この実行委員会で、福武・北川両氏らとともに大きな役割を担ったのが香川県である。石油危機後、素材型重化学工業が衰退し、それに代わる先端技術産業の立地も進まなかった香川県では、以前から経済政策の柱として観光産業の育成に力が注がれていた。瀬戸大橋建設事業も観光開発の観点から大きな期待が寄せられたが、高速交通の実現は移動の便宜を高めた

表1 瀬戸内国際芸術祭実行委員会

会長	香川県知事 浜田恵造
名誉会長	前香川県知事 真鍋武紀
副会長	香川県商工会議所連合会長 高松市長
総合プロデューサー	福武総一郎（(財)直島福武美術館財団理事長）
総合ディレクター	北川フラム（女子美術大学教授）
構成団体	香川県、高松市、土庄町、小豆島町、直島町、(財)直島福武美術館財団、(財)福武教育文化振興財団、香川県市長会、香川県町村会、四国経済産業局、四国地方整備局、四国運輸局、国立療養所大島青松園、四国経済連合会、香川県商工会議所連合会、香川県商工会連合会、(社)香川経済同友会、香川県農業協同組合、香川県漁業協同組合連合会、(株)百十四銀行、(株)香川銀行、香川大学、四国学院大学、徳島文理大学、高松大学、香川県文化協会、(財)四国民家博物館、(社)香川県観光協会、(社)日本旅行業協会中国四国支部香川地区会、(財)高松コンベンション・ビューロー、香川県ホテル旅館生活衛生同業組合、四国旅客鉄道(株)、高松琴平電気鉄道(株)、香川県旅客船協会、(社)香川県バス協会、香川県タクシー協同組合、(財)香川県老人クラブ連合会、香川県婦人団体連絡協議会、(社)日本青年会議所四国支部香川ブロック協議会、香川県青年団体協議会、さぬき瀬戸塾[オブザーバー]、岡山市、玉野市、岡山県商工会議所連合会、岡山大学

反面、日帰り観光の比重を高めることにもなり、宿泊と結びついた観光収入の増加には必ずしも直結しなかった。この点、交通が不便な離島を舞台とした今回の芸術祭は、念願とされていた滞在型の観光振興に道を開くものであった。そこで県は多額の公費を投入して集客のための広報活動、安定した大量輸送のための交通対策に力を入れると同時に、国の観光圏整

備法に規定される観光園（「香川せとうちアート観光園」）の認定を受け、県下全域を視野に入れて宿泊拠点（滞在促進地区）を整備し、芸術祭の経済効果を県全体に波及させることが目指された。このように今回の芸術祭では文化事業としての意義だけでなく、芸術祭から派生するマクロ地域経済的な効果に大きな政策的関心が寄せられた²⁾。

以上のように、瀬戸内国際芸術祭は性格の異なる複数の目的を有していたといえる。したがってその事後評価にあたっては複数の観点、すなわち、①文化事業としての評価、②地域づくり事業としての評価、③マクロ地域経済的な評価、という3つの観点から評価することが可能である。

なお、芸術祭終了後、県議会で芸術祭に関する総括的な討論が行われたが、そこでの事業評価はもっぱら③の観点から行われ、またこの点での成果が強調される傾向にあった。例えば、下の議事録にみるように、今回の芸術祭は来場者が93万人に達したことをもって成功とされている。ちなみに開催前には来場者数は30万人（経済効果は50億円）と予測されており、今回の来場者数はそれを大幅に上回るものであった。また、首都圏や関西など遠方からの来場者が多く、平均宿泊日数が例年を大きく上回ったことも成果としてしばしば言及された。課題としては、芸術祭の来場者が県内の他の観光地にはあまり向かわず、観光の全県的な波及効果という点で限界があったことが挙げられているが、これもいうまでもなくマクロ地域経済的な観点からの評価であるといえる³⁾。

・・・瀬戸内国際芸術祭の総括についてであります。芸術祭には、予想を大きく上回る九十三万人余の来場者があり、成功裏のうちに閉幕したところであります。そこで、成功要因や課題など芸術祭の総括について、理事者の見解をただしたのであります。これに対して理事者は、今回の芸術祭は、さまざまなメディアに取り上げられ話題性があったことが、まずは成功要因だと考えている。一方、運営面で不十分な点もあり、例えば、県内の他の観光地への誘客不足などが課題として挙げられている。しかしながら、大勢の方々が香川を訪れたことにより、一定の経済効果が生じ、本県の知名度もアップしたと考えている。また、収支見込みでは、一億円余の剰余金があり、これは継続展示作品の補修費等に充当してまいりたいと考えている。なお、芸術祭の今後のあり方については、今回の反省を踏まえて、実行委員会で議論してまいりたいとの答弁がなされたのであります。

（2010年度 11月定例会 Y議員発言）

逆にいうと、①と②に関する事業評価は必ずしも十分に行われたとはいえない。本稿はこのうち特に②（地域づくり事業）の観点に立って、開催地となった島の住民の立場から芸術祭の事後評価を行おうとするものである⁴⁾。

今回の芸術祭は芸術作品展としての規模の大きさや斬新さのみならず、それが離島で開催されたという点でも注目されるべきものであった。周知のように、離島は都市住民の観念的な郷愁や憧れを喚起する場であるだけでなく、現実的には居住条件の著しい不利性によって

特徴づけられる地域である。このことは本土と近接した瀬戸内の離島にとっても例外ではなく、むしろ、瀬戸内の離島のほうが外洋離島よりも過疎高齢化の進行が激しい。したがって、今回の芸術祭は離島振興という古くから懸案とされてきた政策課題との関連でもきわめて興味深い試みであり、その地域づくり事業としての効果を現場に即した観点から検証しておくことは意義あることであるといえよう。

2. 調査地の概要

芸術祭のイベント開催会場となったのは、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島の7つの島と高松港周辺エリアである。われわれはこのうち、直島、豊島、女木島、男木島の4島を調査対象地に選んだ（図1、表2参照）。

女木島と男木島は、以前は両島で1つの自治体（雌雄島村）を形成していたが、1956年に高松市に編入合併された。両島は今回調査した4島の中で最も過疎高齢化が深刻であり、人口はともに200人前後、高齢化率60～70%である。

環境的な制約が大きい離島では、単一職種への就業では生活を維持することは困難であるため、家族員が総出で働き、雑多な収入を寄せ集めて家計を支える家族多就業構造がみられる場合が一般的である。女木島と男木島の場合、自給用の農業と沿岸漁業による収入を組み合わせる形で生活が維持されてきた。しかし高度成長期以降、瀬戸内臨海部の工業開発に関連した埋立、浚渫事業の影響などで漁獲量は減少、養殖漁業にも失敗し、漁業従事者は減少の一途を辿っている。高齢化がすすんだ現在では、年金と自給用農業の組み合わせが最も広範にみられる生活パターンである。なお、女木島には海水浴場や洞窟などの観光資源があるため、夏の海水浴客を対象とした民宿が数軒ある。



図1 会場の位置図

表2 4島の基本統計

	市町村名	面積 (km ²)	人口 (2006)	高齢化率 (2005)	主要産業	来場者数 (万人)
男木島	高松市	1.37	236	61.4	漁	9.7
女木島	高松市	2.67	232	57.1	漁	10
豊島	土庄町	14.49	1185	43.7	農・漁・建設	17.5
直島	直島町	7.8	3397	27.8	製造・漁	29.2

豊島は1955年に土庄町に編入合併された一部離島である。現在の人口は約1000人、高齢化率は45%程度である。県内の指定離島の中では最も面積が大きく、人口も直島に次いで多いが、他の島々と同様、過疎高齢化の進行は著しい。有害産業廃棄物不法投棄事件で有名な島でもある。

豊島の地場産業は農業、漁業、石材業である。ため池が豊富でかつては米を島外に移出するなど離島としては例外的に農業の条件にめぐまれた島で、島内の各所に棚田が形成されている。しかし今日では、農業や養殖漁業で一部先進的な取り組みがみられるものの、地場産業は全般的に衰退傾向にある。高度成長期以降、公共事業に関連した建設業も一定の比率を占めるようになったが、近年の財政改革の中でそれも先細りの傾向にある。産業の空洞化と高齢化が相まって、豊島でも年金生活者が人口の主流になりつつある。

直島は他の島とは異なり、地域の産業基盤が比較的安定した島である。直島には大正6年に三菱マテリアル直島製錬所が進出し、以来、島民の過半数がマテリアルとその関連企業に職を得ている。いわば三菱の企業城下町ともいえる島である。人口規模も2009年現在で3365人と県内の指定離島の中では最大で、自治体としての独立性を維持している唯一の島である。地場産業として漁業も盛んであり、養殖ハマチの水揚げ高は県下最大を誇る。先述したように、20年ほど前から福武財団も直島で文化芸術事業を展開するようになり、それに伴い観光客数も急増している。今日では、直島は対外的にはもっぱら「アートの島」として知られているといっていよう。

以上のように、直島とその他の3島とでは、島が置かれている社会経済的現状やアートプロジェクトの経験の有無という点で大きな相違がある。島のそのような内部的条件の相違が今回の芸術祭に対する評価をどのように規定したのかを探ることが、今回の調査の焦点の1つである。

3. 調査の方法

本調査は上記の4島の住民を対象としたアンケート調査（調査票については巻末の資料1を参照のこと）とヒアリング調査からなる。アンケート調査の調査票を作成する際には、勝村他（2008）を大いに参考にした。この論文は、北川フラム氏がプロデューサーを務めた「大地の芸術祭 妻有トリエンナーレ」を事例に、住民の視点からのアートプロジェクト評価とその規定因を解明しようとしたもので、筆者の問題意識とも重なる部分が多い。この先行研究からさしあたって注目しておきたいのは以下の知見である。

1. アートプロジェクトに対する住民評価は、①芸術作品に関する評価と、②地域づくりに関する評価、を区別して分析する必要がある。
2. ①に関しては、住民の現代アートに対する評価は低いものではないが、現代アートが、制作者やイベント主催者の思惑とは裏腹に、サイトスペシフィック（特定地域の歴史や

- 伝統を反映させた) ものであるとの認識はあまりもたれていなかった。
3. 現代アートへの好感度は、職業（専門職）や学歴（高学歴）といった属性的要因とは無関係であり、それよりもプロジェクトに関する事前説明が十分に行われていたか否かによって規定される部分が大きかった。
 4. ②に関しては、「アートプロジェクトが地域に好ましい変化をもたらした」と答えた人は3割に満たず、地域づくり事業としての評価は高いものではなかった。
 5. アートプロジェクトが地域社会に与えた影響という点では、来場者のインパクトよりも、住民とボランティアやアーティストとの間で行われた交流やそれによって築かれた関係性が大きな意味をもった。

これらの指摘はいずれも重要なものであり、本調査にも同趣旨の質問文を盛り込んだ。アンケート調査は2011年3月に実施した。実施手順や回収結果は以下の通りである。

豊島	選挙人名簿から無作為抽出した150人に郵送で配布・回収 有効回収率57.3%（86票）
直島	電話帳から無作為抽出した300人に自治会を通して配布・回収。有効回収率88%（264票）
男木島	選挙人名簿から無作為抽出した50人に自治会を通して配布・回収。有効回収率76%（38票）
女木島	44人に自治会を通して配布・回収

基本的には、無作為抽出した対象者に自治会を介して調査票を配布、回収するという方法をとった。自治会の協力が得られたことで、この手の調査としては異例の高い回収率が得られた。なお女木島に限り、極度の高齢化のためサンプリング調査は困難との理由から、自治会の判断で回答できそうな方を地区ごとに選んでもらった。そのため、女木島の回答者はやや男性に偏ってしまったが、極度に高齢化が進んだ地域で一定の票数を集めるためには現実的にやむを得ない処置であったと考える。

ヒアリング調査は上記4島の自治会関係者を中心に、①2009年11月、②2010年9月～11月、③2011年6～7月の都合3回行った。①では芸術祭の受け入れ準備状況⁵⁾が、②では芸術祭の成果と課題、③ではアンケート調査の結果に関する意見聴取、が主なテーマとなった。これらのヒアリング調査を通して、とりわけ芸術祭が島の定住条件に与えた影響の有無について多くの意見が寄せられた。これはアンケート調査の質問項目には盛り込まなかった事柄であるが、住民の芸術祭評価を規定する大きな要因になっていると思われるので、数量的な分析とは別にこの点についても適宜論及していくことにしたい。

4. 調査結果

(1) 属性とコミュニティ・アタッチメント

芸術祭の評価に関する分析に先立ち、アンケート調査の対象者の基本属性や地域意識の観点から4島の地域特性を示しておきたい。

下図にみるように、性別では、上述した事情により、女木島で実態よりもやや男性が多くなっている（図2）。年齢は、各島とも実態を概ね反映している。直島と他の島では住民の年齢構成に大きな違いがあること、男木島と女木島の高齢化率が際立っていることがわかる（図3）。

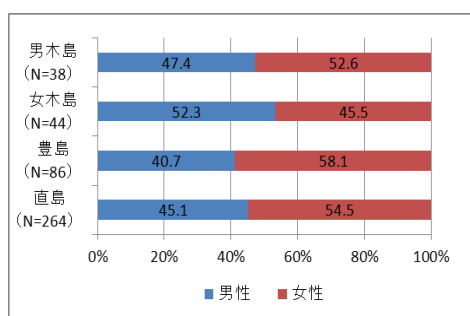


図2 性別

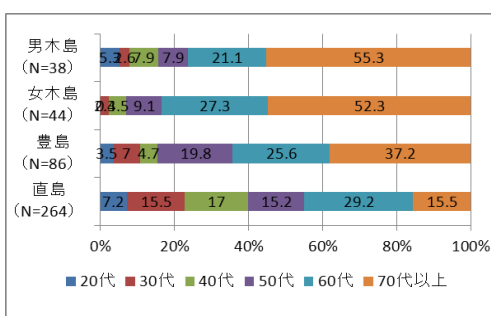


図3 年齢

男木島と女木島は高齢化のみならず世帯の縮小も顕著であり、単独世帯が男木島では23.7%、女木島では29.5%を占めている。それに対し、直島では単独世帯は8%にすぎず、そのぶん核家族の比率が高く（35.6%）なっており、他の3島とは異なった世帯構成を示している（図4）。

職業と学歴に関しても、直島とその他の3島の違いが顕著である。男木島、女木島、豊島では高齢化を反映して「年金生活」の占める比率が突出して高くなっているのに対し、直島では「年金生活」と「専門・公務・教員」、「主婦」が比較的均等な分布を示している⁶⁾。学歴では、「短大・高専」以上の高学歴者の占める比率が、男木島、女木島、豊島では6.8~18.6%であるのに対し、直島でのそれは32.9%であり、大きな差がある（図5、図6）。

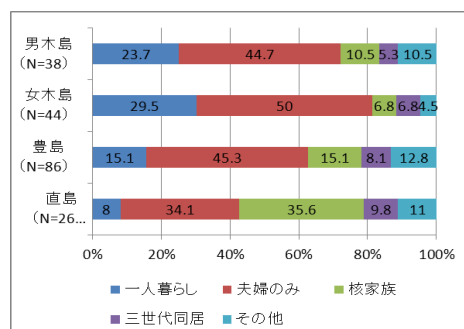


図4 世帯構成

全体的にみて、男木島、女木島、豊島では、程度の差こそあれ、過疎の農漁村に典型的な属性がみられるのに対し、直島の住民属性には比較的都市的な特性がみられるといえる。

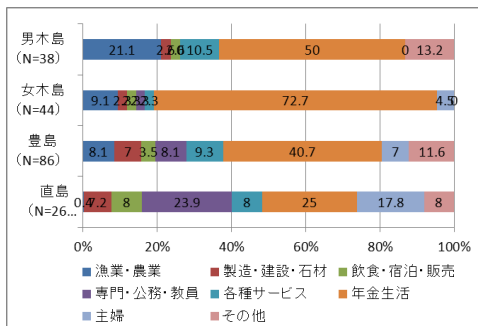


図5 職業

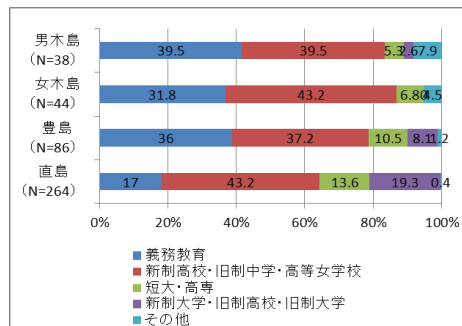


図6 学歴

続いて、住民の地域への根ざし（コミュニティ・アタッチメント）についてみておこう。アンケート調査では、島内で日ごろ親しくつきあっている人の数（交際量）、島の行事に参加する度合い（行事参加）、島にずっと住んでいたい（永住意思）、島に愛着があるか（愛着）の4つの質問に対し、4段階の選択肢で回答を求めた。その結果を1点～4点で得点化し、平均値を算出して図示したものが図7である。

単純集計値に触れておくと、交際量では「10人以上」が47.7～57.9%、行事参加では肯定的回答（「よく参加」と「まあ参加」の合計値）が50.8～68.2%、永住意思では肯定的回答（「ぜひ住んでいたい」と「まあ住んでいたい」の合計値）が78.9～90.9%、愛着では肯定的回答（「大いに愛着ある」と「まあ愛着ある」の合計値）が81.4～86.4%を占めた。離島という地形的条件に規定されて、4島とも地域における社会関係資源がきわめて豊富であり、地域意識も高いことがわかる。

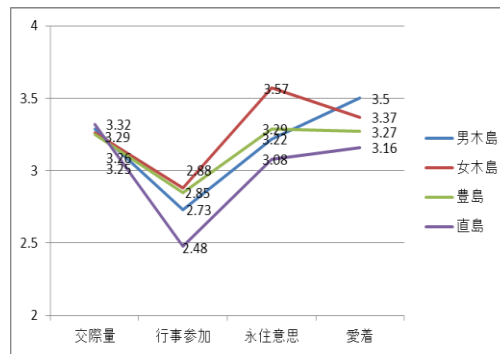


図7 コミュニティ・アタッチメント

そのことを前提とした上で地域間の差異をみると、行事参加、永住意思、愛着に関して、直島のスコアが他の島より低くなっている。行事参加に関しては島の人口規模が関連していると思われるが、全般的に、直島では他の島に比べて生活様式の都市化がすすんでおり、そのことが住民の地域への関わり方にも反映されていると考えられる。

(2) 文化事業としての評価

芸術祭には文化事業としての側面と地域づくり事業としての側面があると上述した。開催地となった島の住民にとって、どちらの側面が重視されたのか。住民が芸術祭に期待したのは何なのかをみることで、この点についてみておきたい。

アンケート調査の結果から、どの島でも過半数の住民が芸術祭に何らかの期待を寄せていたことがわかる（図 8）。では、それは何に対する期待だったのか。この点について多重回答で答えてもらった結果を示したのが図 9 である。

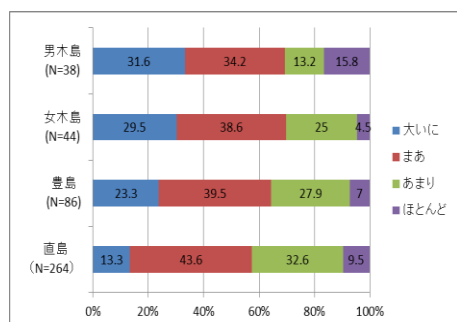


図 8 芸術祭への期待

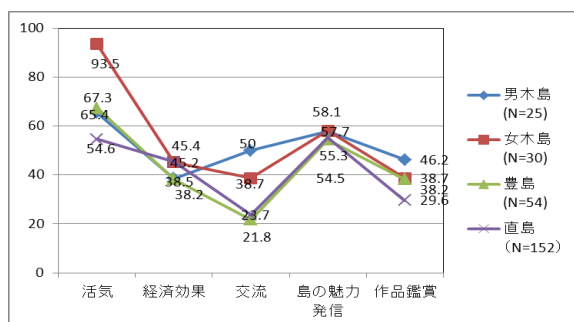


図 9 期待の内容（多重回答）

住民が芸術祭に期待したのは、多くの観光客が訪れて島に活気生まれること（「活気」）であり、次いで、島の魅力を島外に発信すること（「島の魅力発信」）であることがわかる。逆に期待が低いのが、島外の人と交流すること（「交流」）や、身近で芸術作品が鑑賞できること（「作品鑑賞」）である。このうち「交流」は、それに対する当初の期待の低さとは裏腹に、住民の芸術祭評価を規定する重要な要因となった。この点については後で詳論する。ともあれ、ここで確認しておきたいことは、「作品鑑賞」への文化的関心よりも、「活気」をはじめとした地域活性化への関心に関わる項目のほうが軒並みスコアが高くなっていることである。島の住民にとって、今回の芸術祭は文化事業よりも地域づくり事業の観点からより大きな関心が寄せられたといえるだろう。

以上のことを前提とした上で、住民は島に展示された現代アートの作品群をどのように評価したのかについてみておきたい。

まず、アート作品を気に入ったか否かについて尋ねたところ、男木島で「気に入った」の比率が 78.9%と突出して高くなっている。それ以外の島では「どちらでもない」が 5~6 割で最も多く、次いで、「気に入った」がおよそ 4 割を占める。「気に入らなかった」の比率はどの島でもきわめて低い。全体的には、現代アートはよくわからない（「どちらでもない」）という反応を基調としつつも、基本的には好意的に受けとめられているといえるだろう。なお、意外なことに、アートのまちづくりで実績のある直島でアート作品に対する好感度が相対的に最も低くなっている（図 10）。

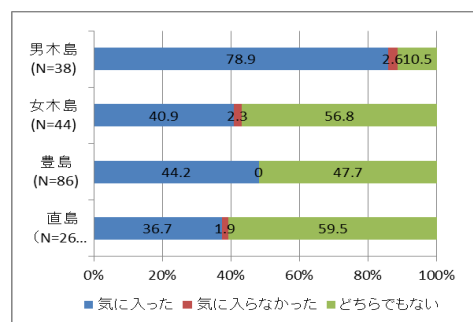


図 10 アート作品の評価

今回の芸術祭では、地域の景観や文化と調和したサイトスペシフィックな作品制作が目指された。そこで、アート作品が地域の歴史文化を表現していると感じたか否かを尋ねた。その結果が図 11 である。「そう思う」と答えた人の比率は男木島で 42.1%とやや高くなっているものの、他の島では 20~30%にすぎず、特に女木島でスコアが低くなっている。全体的に、アートに対する好感度の数値との間には少なからぬ落差がみとめられる。アート作品は住民から比較的好意的に受けとめられた一方で、島の表現媒体としては必ずしも有効には機能しなかったといえる。このことは、現代アートはサイトスペシフィックなものでもそれなりに気に入られていることを示しているともいえるが、住民が芸術祭で「島の魅力を島外に発信する」ことに高い期待をもっていたことを鑑みるなら、反省が求められる結果ともいえる。なお、付け加えるなら、今回の芸術祭では 2 日間の期間限定で各島のアートが見放題のフリーパスが販売された。そのためアートだけを駆け足で観て回る観光客が少なくなく、住民からはもっと島の自然や生活をゆっくり味わってほしかったとの意見が聞かれた。アートを鑑賞するだけでなく、アート鑑賞の機会を通じて島の魅力を知ってほしいという住民の要望は決して弱いものではない。アンケート調査の自由記述欄に寄せられた以下のようなコメントには真摯に耳を傾ける必要がある。

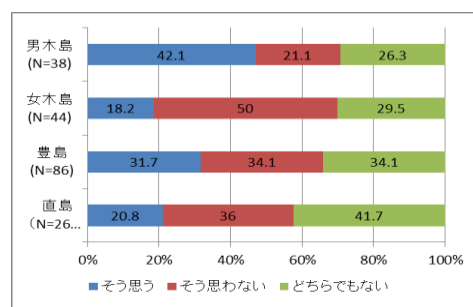


図 11 アート作品は地域の歴史文化を反映

2 年後にもぜひ男木島を会場にしてもらいたいと思います。又、島の文化や歴史を表現しているような作品があれば島民の愛着ももっと沸くと思います。 (男木島 70 代以上 男性)

豊島は一泊してもらって、ゆっくりしてその生活を理解してもらえるところではないかと思います。芸術作品もよいのですが、島の普通の暮らしぶりを味わって頂きたいと思います。 (豊島 60 代 女性)

アート作品に対する住民の評価を規定している要因はどのようなものなのか。勝村他 (2008) ではこの点に関し、職業や学歴といった属性的要因が関連性をもっていないこと、芸術祭に関する説明が行われたか否かが大きな規定力をもったことが指摘されているが、本調査でも概ねそのことを追認する結果となった。

まず属性的要因であるが、本調査の調査対象地は越後妻有のケース以上に過疎高齢化が進んでおり、一般に現代アートに関心をもちそうな専門職層、高学歴層の比率はきわめて限られる。先述したように、職業における「専門・公務・教員」、最終学歴における「新制大学・旧制高校・旧制大学」が統計的分析に耐えるだけの比率を占めているのは直島のみである。しかしながら、作品鑑賞への期待度やアートへの好感度はむしろ直島のほうが他の島よりも

低く、他の島でも職業や学歴はアート評価と関連性を有していなかった。なお、現代アートに関連して属性による有意差がみられたのは性別で、女性の方が男性よりも作品鑑賞への期待度や実際に作品鑑賞を行った度合いが高い傾向がみられた。

次に、事前に芸術祭の説明を受けたか否かとの関連である。この点について尋ねた結果が

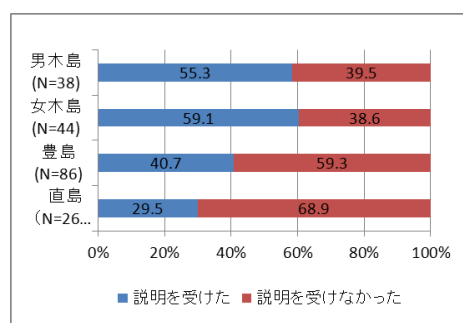


図 12 事前説明の有無

図 12 で、芸術祭の周知度と島の人口規模が逆相関する関係を示しており、人口規模の大きな直島では周知があまり行き届かなかったことがわかる。また、聞き取りによれば、男木島、女木島、豊島では今回のようなアートプロジェクトは初めての経験であり、そのため実行委員会や自治会は住民説明会に力を入れたのに対し、直島ではこれまでの経験があることから逆に特別の周知対策は行われず、町の広報誌による連絡にとどまったようである。

表 3 事前説明の有無とアート作品評価の関連

		気に入った	気に入らなかった	どちらでもない
男木島*	説明あり (N=19)	100	0	0
	説明なし (N=15)	66.7	6.7	26.7
豊島**	説明あり (N=34)	64.7	0	35.3
	説明なし (N=45)	35.6	0	64.4
直島*	説明あり (N=76)	48.7	2.6	48.7
	説明なし (N=179)	31.8	1.7	66.5

この事前説明の項目とアート作品の評価をクロス集計した結果が表 3 である。男木島、豊島、直島で、事前に芸術祭に関する説明を受けた人の方が、アート作品に対する評価が有意に高くなっていることがわかる。アートに対する住民評価には、アートに対する関心や造詣とは別に、地域内で対面的な周知や情報交換（コミュニケーション）が行なえる社会的条件が整っているか否かが大きな意味をもつといえるだろう。地域規模が小さく共同体的性格が濃厚な男木島と、地域規模が大きく比較的都市化が進んだ直島とでは、この点で少なからぬ条件の違いがあり、そのことがアートに対する評価を分ける要因になったと考えることができる⁷⁾。

以上の点に加えて、以下の点をつけ加えておきたい。第 1 に、島の大きさや島内におけるアートや集落の分布状況も住民のアート評価に影響を与えたと考えられる。男木島の面積は小さく、かつ島内の狭いエリアに住宅が密集している。アート作品は人家の密集地区に展示されたため、ほとんどの住民は身近にすべてのアートに接することになった。他方、他の島は面積が相対的に大きく、集落も島内に分散しているため、住民が一様に同じようにアート

に接する条件は供されなかった。アートそのものの質や住民の関心の度合いとは別に、展示場へのアクセスを規定する地形的、交通的要因が住民評価に影響を与えた面も無視できない。

第2に、そしてこのことを特に強調しておきたいのだが、アーティストへの制作協力やボランティア（こえび隊）との交流がアート評価に与えた影響である。表4は、芸術祭にどのような関与を行ったかについて尋ねた結果である。全体的に男木島のスコアが高く、中でも「(アーティストへの)制作協力」や「こえび隊の補助」で突出した高スコアを示している。先にみた男木島でのアート評価の高さは、このこととの関連で理解されるべきである。男木島では乳母車（「おんば」）を使ったアートなど住民にも親しみやすいアートが比較的多く制作され、かつ制作過程でアーティスト、こえび隊、住民との間で活発な交流が行われた。このような交流を通してアート作品を身近に感じられるようになったこと、あるいは自分が芸術作品の制作に関わったことへの自負が、現代アートへの肯定的評価を生み出したと考えられる。

逆に、直島では既存の美術館でのアート展示や新美術館の建設事業が中心となり、住民がアーティストやボランティアと交流する機会はほとんどなかった。直島に展示されたアートは芸術作品としては最もクオリティの高いものであるが、アートに対する住民の評価が最も低くなっているのは、そのことが影響していると考えられる。女木島では、設置されたアートが住民にとっては難解なものが多く、島の高齢者が手伝えるような作業も少なかったため、アーティストとの親密な関係は生まれにくかった。豊島では集落によってアーティスト（およびボランティア）と住民の関わり方に少なからぬ差があった。例えば、豊島の甲生地区は島で最も過疎高齢化が進んだ集落であるが、アーティストが長期にわたって滞在し、住民と親密な交流を繰り返し広げたため、住民のアート評価は他の地区に比べて高いものとなった。

表4 芸術祭への関与（多重回答）

	作品見学	制作協力	観光客の案内	こえび隊の補助	イベントへの参加	資材の提供	特に関与せず
男木島 (N=38)	51.4	24.3	35.1	24.3	40.5	35.1	24.3
女木島 (N=44)	77.3	9.1	31.8	13.6	36.4	9.1	36.4
豊島 (N=86)	65.1	7	20.9	8.1	25.6	9.3	30.2
直島 (N=264)	47	1.9	24.6	4.5	22.7	2.3	40.5

(3) 地域づくり事業としての評価

既述のように、住民は芸術祭に対して芸術作品の鑑賞機会としてよりも地域活性化への期待という観点から関心を寄せていた。では、実際に芸術祭は地域生活にどのような影響を与えたのであろうか。

地域生活への影響 まず、芸術祭が島の生活に及ぼした影響を、来場者による活気、経済

効果、交流への関心、島への愛着、島づくり活動の5つの側面についてみておこう。

「多くの観光客が訪れて島に活気がでた」に対する肯定的回答（「大いに思う」と「まあ思う」の合計。以下、同じ）の分布幅は68.2%～86.9%であり、どの島でも総じて高スコアである。活気や賑わいの創出という点で、芸術祭は当初の期待通りの成果をもたらしたといえる（図13）。相対的な順位をみれば、男木島でスコアが高く、直島や女木島でややスコアが低くなっている。現実の来場者数は直島が圧倒的に多かったのに（期間中の来場者数は、直島29万2千人、豊島17万5千人、女木島10万人、男木島9万7千人）、住民の活気を感じ方はそれを反映していないことがわかる。単なる来場者の数ではなく、上述したような島の地形的条件や来場者との交流の有無が、「活気」の主観的認知に影響を与えたと考えることができる。

「芸術祭で島に経済効果がもたらされた」に対する肯定的回答の分布幅は29.6%～71.9%である。全体的に当初の期待（図9参照）よりも数値が高くなっているが、島間でスコアの開きが大きい結果となっている（図14）。

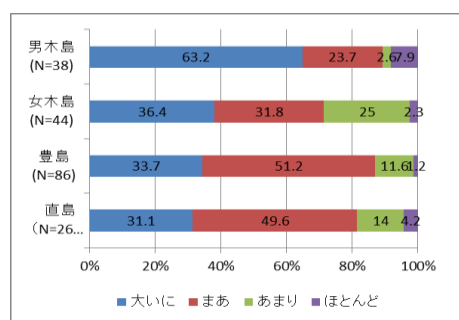


図13 活気

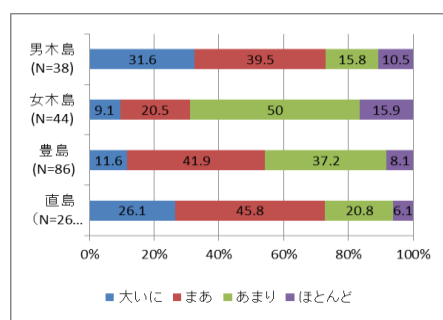


図14 経済効果

スコアが高いのが男木島と直島である。直島では芸術祭の開催を見越して民宿が新たに20軒ほど開業した。また、海の駅の特産品販売や新たに建設された銭湯の集客も好調で、芸術祭開催期間中のこれらの総売り上げは1億円に達した。

男木島では男木交流館という施設が建設された。この施設はもともとアートとして建設されたものであるが、船の待合所や軽食販売所としても利用されており、施設の管理運営は市に雇用された島民に委ねられている。これは、芸術祭を単なる観光客のためのイベントに終わらせず、住民の生活利用にも供するものを残してほしいという自治会長の強い働きかけで実現したものである。期間中は住民15名ほど（ほとんどが女性高齢者）がローテーションを組んで慣れない客商売に奮闘し、400～500万円ほどの売り上げをあげた。

上記二島に次ぐのが豊島で、豊島でも飲食店や宿泊施設が新たに数軒オープンした。

目立ってスコアが低いのが女木島である。女木島では芸術祭は一過的なお祭り騒ぎにすぎないという受けとめ方が支配的であったようで、飲食店や宿泊施設の新規開店はみられなかった。

芸術祭を経験したことで「島外の人々と交流することに関心が高まった」に対する肯定的

回答は 45.9%~84.2%の幅で分布している。これは当初の期待とくらべると格段に高い数値であり、芸術祭は「交流」に関して期待を大きく上回る成果をもたらしたといえる。島別にみると、男木島でスコアが高く（84.2%）、直島で低い（45.9%）結果となっている（図 15）。先述したように、男木島ではアートの制作協力や交流館での販売活動を通して活発な交流がみられたのに対し、直島では美術館での作品展示が中心になり、島外の人々との交流の機会が乏しかったことが関係していると推察される。

芸術祭を経験したことで「自分の島に対する愛着が強まった」と感じている人は 61%~81.6%で分布している（図 16）。全体的にスコアは高く、多くの来場者やマスコミ報道を通じて対外的な注目を浴びたことが、自分の地域への愛着や誇りを高める作用をもたらしたと推察できる。しかし他方で、対外的な知名度が最も高い直島でスコアが最も低くなっており、住民の島への愛着が対外的な周知度だけによって規定されているわけでもないことを示唆する結果となっている。

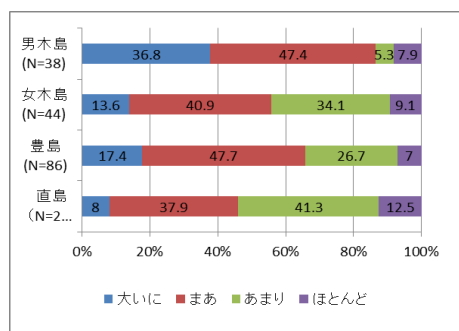


図 15 交流

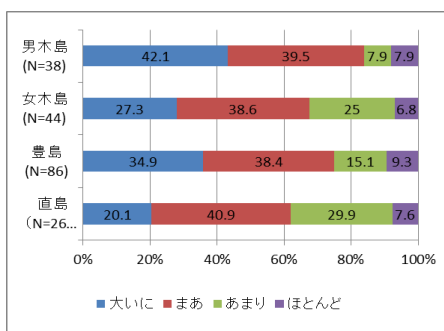


図 16 島への愛着

芸術祭を経験したことで「住民による島づくり活動が活発になった」と感じている人は、男木島、豊島、直島では 53.5%~65.8%を占めている。男木島で活発な活動が展開されたことは既述の通りだが、豊島でも今回の芸術祭を機に豊島観光協会が起ち上げられ、戸惑いや混乱をともしつつも、島の活性化に向けて試行錯誤の取り組みが試みられた。直島では、聞き取りによる限り、新たな住民活動の展開はみられなかったが、飲食店や民宿の増加、特産品売上額の増加といった経済面での成果が島づくり活動の進展としてイメージされたのかもしれない。いずれにせよ、これらの島では芸術祭が地域の住民活動に対して一定の活性化効果をもたらしたと受けとめられている。それに対し、女木島のスコアは 27.3%と目立って低くなっており、芸術祭と住民活動の接点があまりなかったことがわかる（図 17）。

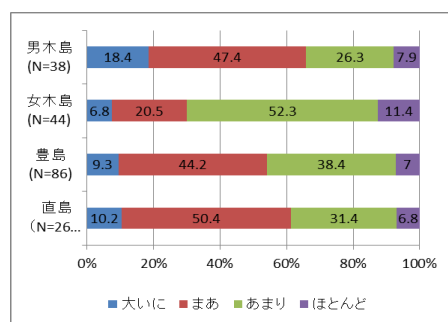


図 17 島づくり活動

なお、交流に関しては、意識の変化だけでなく、実際に知り合いができたかどうかについても尋ねた。芸術祭で「新しい知り合いができた」と答えた人の割合は、男木島で顕著に高く（78.9%）、直島で低くなっている（26.1%）（図 18）。続いて、「新しい知り合いができた」と答えた人に、「誰と知り合いになったのか」を多重回答で尋ねた結果が図 19 である。男木島、女木島、豊島では、観光客、アーティスト、ボランティア（こえび隊）が比較的均等に分散していることがわかる。来島者の人数という点でいえば観光客が圧倒的多数を占めるが、実質的な交流の有無という点で見れば、アーティストやボランティアの存在が大きくクローズアップされてくることわかる。他方、直島では施設展示が中心となり、ボランティアやアーティストが介入できる余地が少なかったため、知り合った人が観光客に特化する傾向がみられる。なお、直島や豊島は人口規模や面積が相対的に大きいため、今回の芸術祭で島内の人と新たに知り合いになるケースも少なからずみられたようである。

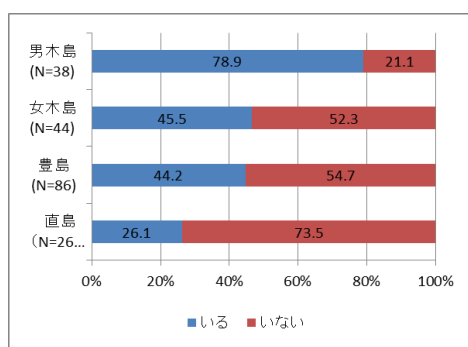


図 18 新たな知り合いの有無

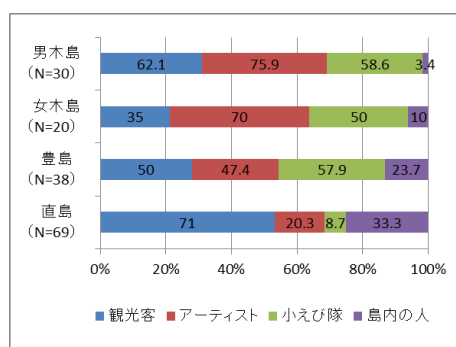


図 19 誰と知り合いになったか（多重回答）

これまでの分析をまとめるなら、芸術祭は、当初の期待通り、まずもって活気や賑わいの創出という点で大きな成果をもたらした。対外的な交流への関心の喚起という点では男木島で当初の期待をはるかに上回る成果がみられたが、直島での成果は限定的であった。また、交流に関しては観光客以上にアーティストやボランティアが果たした役割が大きかったことが明らかになった。経済効果に関しては男木島と直島で相対的に大きな成果がみられたが、女木島での成果は乏しかった。地域への愛着に関しては、総じてそれを強める効果がみられた。芸術祭は島づくりに対しても一定の活性化効果をもたらしたが、女木島での効果は限定的であった。

島別にみるなら、芸術祭が島の住民生活に与えた影響は、経済的側面、社会的側面のいずれにおいても、男木島で最も大きかった。直島では経済面で相対的に大きな成果がもたらされたが、対外的交流に対する影響は希薄であった。豊島での影響評価は総じて4島の中で中間的な位置づけにあるが、当初の期待との関係でいえば、全体的にそれを上回る効果がみられたといえる。芸術祭が住民生活に与えた影響が最も少なかったのは女木島で、特に経済効果や島づくりに関するスコアは他の島と比べて目立って低かった。

全体的評価とその規定因 では、芸術祭に対する住民の全体的な評価はどのようなものなのか。

「全体的にみて、芸術祭が島に好ましい変化をもたらした」と感じている住民の比率は男木島で顕著に高く（76.5%）、逆に、女木島（29.5%）と直島（32.6%）で相対的にスコアが低くなっている（図 20）。

続いて、次回（3年後）も自分の島で芸術祭を開催したいかを尋ねたところ、肯定的な回答は男木島で高く（73.7%）、直島で低い（33%）という結果となった（図 21）。

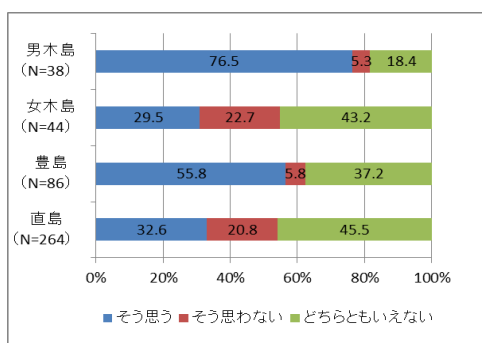


図 20 芸術祭は島に好ましい変化をもたらした

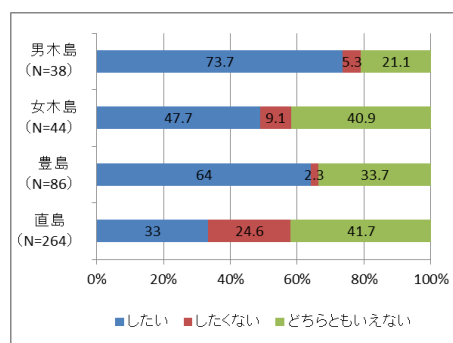


図 21 次回の開催

越後妻有の大地の芸術祭（勝村他 2008）と比較して、瀬戸内国際芸術祭に対する住民の評価は全体的に高いこと、しかし島によって評価にかなり大きな差異が生じていることがわかる。評価が最も高いのは男木島である。女木島と直島はともに今回の芸術祭に対する評価スコアが低い。次回の開催意向に関してみれば、女木島ではスコアの上昇がみられるのに対し、直島のスコアは一貫して低くなっている。このことから、今回の芸術祭に対して直島で最も厳しい評価がみられるといえる。

このような評価はどのような要因によって規定されているのか。

先にみた、芸術祭が地域生活に与えた影響に関する結果と重ね合わせると、経済効果が最も大きかった直島で全体的な評価が最も低くなっていることから、経済効果の有無が芸術祭の評価に与えている影響は限定的であるといえる。県の事業評価では経済効果の観点が強調される傾向にあったが、住民評価の規定因はそれとは別の要因を探る必要があるといえるだろう。

この点で一貫性をもった規定力がみとめられたのは、芸術祭への関与の有無と、芸術祭で知り合った人の有無である。どの島でも「芸術祭に特に関わらなかった」と答えた人は「芸術祭が島に好ましい変化をもたらした」と感じている度合いが低い傾向がある（表 5）。逆に言えば、芸術祭への参加度が高いほど、芸術祭に対する評価は高くなる傾向にあるといえる。また、芸術祭で知り合った人がいるの方が、芸術祭の地域生活への影響を肯定的に評価する傾向が強い（表 6）。対外的な社会的交流の有無が、アート作品の評価のみならず、

芸術祭の全体評価も規定していることがわかる。

以上のことは、次回の開催意向についても確認できる。男木島、豊島、直島では、芸術祭に特に関与しなかった人は、次回の開催について消極的な傾向がある（表 7）。直島と男木島では、芸術祭で知り合いができた人が、次回の開催により積極的な意向を示している（女木島と豊島でも、統計的な有意差はないが、同様の傾向がみられる）（表 8）。

表 5 芸術祭への関与の有無
「好ましい変化」との関連

	特に関与せず		F値
	該当	非該当	
男木島	該当	2.22	10.70**
	非該当	2.86	
女木島	該当	1.69	8.03**
	非該当	2.31	
豊島	該当	1.62	11.15**
	非該当	2.36	
直島	該当	1.9	16.12***
	非該当	2.26	

表 6 知り合った人の有無
「好ましい変化」との関連

	知り合った人		F値
	いる	いない	
女木島	いる	2.45	12.64**
	いない	1.73	
豊島	いる	2.47	9.66**
	いない	1.83	
直島	いる	2.46	21.22***
	いない	2	

表 7 芸術祭への関与の有無
次回の開催意向との関連

	特に関与せず		F値
	該当	非該当	
男木島	該当	2.33	4.55*
	非該当	2.79	
豊島	該当	2.42	5.09*
	非該当	2.7	
直島	該当	1.8	27.01***
	非該当	2.27	

表 8 知り合った人の有無
次回の開催意向との関連

		次回の開催意向		
		したい	したくない	どちらでもない
男木島*	いる (N=30)	80	0	20
	いない (N=8)	50	25	25
女木島	いる (N=20)	65	5	30
	いない (N=23)	34.8	13	52.2
豊島	いる (N=38)	73.7	0	26.3
	いない (N=47)	57.4	4.3	38.3
直島***	いる (N=69)	59.4	11.6	29
	いない (N=193)	23.8	29.5	46.6

* p<.05 **p<.01 ***p<.001

住民とボランティア（こえび隊）の交流について補足しておきたい。強調しておきたいことは、住民とボランティアの交流は芸術祭終了後も継続されていることである。こえび隊はもともと芸術祭の準備・運営のためのボランティアとして組織されたものであるが、住民との接触を通じて次第に島の生活にも目が向けられるようになり、各種の地域行事（草刈や文化祭等）の手助けをしようとする動きが自然発生的に生じるようになった。しかし芸術祭期間中はアート作品の管理や観光客への対応に忙しく、島民と交流する時間的余裕はなかなかもてなかったそうである。そのため、むしろ芸術祭が終了した現在のほうが、住民とボランティアの交流は活発化しつつある。島では過疎高齢化による人手不足が深刻であるため、こ

れらボランティアによるちょっとした支援が地域行事の維持に果たしている役割は意外に大きなものがあり、島民からも好意的に受けとめられている。先にみたように、芸術祭によって「島づくり活動が活発になった」とする意見が過半数を占めたこと、あるいは芸術祭に対する全体的評価にしても、ボランティアとの交流が継続されていることによって規定されている面が少なくないと推察される。芸術祭の開催前には住民の対外的交流に対する期待は低かったことを鑑みるなら、それが事業評価の大きな規定因となったことは予期せざる結果であったといえるが、ともあれボランティアの島への関与が芸術祭の期間に限定されることなく持続し、日常的な地域活動への支援へと活動の幅を広げつつあることは、今回の芸術祭が島にもたらした最も大きな成果として正当に評価しておく必要がある。

(4) 定住条件への影響

最後に、芸術祭に対する住民評価の規定因として、芸術祭が島の定住条件に与えた影響についても触れておきたい。定住条件とは、地域に人が住み続ける上で必要な生活要件を満たすための制度的、施設の条件のことである。産業、教育、医療、交通といった生活要件の充足がそれにあたり、これらがある程度トータルに充足されないと、生活の維持、再生産は困難になる。この定住条件の面で離島はきわめて脆弱な立場に置かれており、それへの政策的対応が長年にわたり懸案とされてきた。今回の芸術祭は離島振興事業そのものではない。しかしイベント目標に離島の活性化が掲げられ、事業の実施にあたって県をはじめとする各種行政・公共機関の介入がみられたことで、芸術祭と離島振興事業の関連を問う（あるいはそのような観点から芸術祭の成果を評価しようとする）住民の声がヒアリング調査やアンケート調査の自由記述欄から少なからず聞かれた。芸術祭と定住対策との関連について論じておきたいのもそれゆえである。

定住条件に関わる成果として指摘しておきたいのは、男木島に建設された男木交流館である。既述のように、この施設はもともとアートとして建設されたものであるが、自治会の強い働きかけで住民の恒久的な生活利用にも供されることになった。男木島ではそれまで船着場に待合室がなく、雨が降ると吹きさらしになることに悩まされてきたが、交流館が建設されたことでこの問題が解決された。施設の管理運営も住民に委ねられることになり、それに関連した雇用が島にもたらされることになった。今回の芸術祭で男木島では施設建設による定住条件の改善という点で確実な成果がみられ、そのことが住民の芸術祭評価に影響を与えたことは間違いない。

しかしそれ以外の点では、芸術祭が島の定住条件に与えた影響は限定的であった。

島の地場産業への影響という点でいうと、まず農業に関しては豊島の「食プロジェクト」が注目を浴びた。豊島は今回会場となった島の中では最も農業条件にめぐまれた島である。「食プロジェクト」はこの豊島を舞台に取り組みされた事業で、荒れがちな棚田を整備し、島の食材を用いたレストランを開店することを通して、現代日本の「食」を見直すことが狙いとされた。この取り組みは島の自給農家に多少の販路開拓をもたらし、また棚田整備に関し

では国の緊急雇用対策事業を活用して若干の雇用が発生した。島にいる数少ない専業農家の一軒が島の自営商店と協力して新たに飲食店を開業するという成果もみられた。しかし「食プロジェクト」に供される食材は少量であり、島の農業の再生につながるほどの起爆力はない。棚田の整備も景観としての農をアピールすることが主眼とされており、生業としての農業基盤の強化とは必ずしも結びついていない。その一方で、多数の観光客の来訪が農作業の妨げになったとの意見が豊島に限らず散見された。

私達は皆農家なのでそれぞれ畑仕事があります。芸術祭でいくら観光客が来られても交流したりお話したりする時間はありません。日々の仕事で追われて毎日クタクタです。昨年夏は特に暑かったのでウロウロ歩く客が目障りでした。
(女木島 70代以上 女性)

漁業に関しては、男木島で特産のタコを用いたタコ飯が販売され、盛況を呈した。当初は尻込みしがちであった住民たちもこの事業の成功で自信を得、男木島では現在、新たに魚の干物の製造、販売事業の立ち上げが検討されている。しかし他方で、水揚げ高で男木島を大きく上回る女木島や直島では漁業と観光の連動はみられなかった。これらの島では、水揚げされた漁獲物は県漁連を介して主に首都圏に向けて一括大量出荷されている。地元の飲食店用に小口販売することは、収益面のリスク（売れ残り等）を考えるときわめて難しい。男木島で上記のような取り組みの検討が可能になったのも、男木島の漁業が最も零細化しているからという逆説的な見方もできなくない。いずれにせよ、観光と漁業の連動や地域内循環に対する障壁として大量出荷方式の流通システムの問題があらためてクローズアップされることになったといえる。

生活交通への影響については、以下のようなことが指摘できる。

第1に、芸術祭の期間中、航路事情の改善が図られた。会場となった各島で航路の新設、増便がみられ、高松と女木島、男木島を結ぶ航路では高松市の助成によって運賃の大幅割引が実施された。離島航路は島民にとって生活の生命線をなすが、いわゆる不採算航路であるため便数や運賃面での条件はきわめて悪い。そのため今回の航路対策は島民にも歓迎され、積年の課題とされてきた航路事情の改善に期待を抱かしめるものとなった。しかしそれはあくまでも観光客の搬送を主目的とした期間限定の特別対策であり、芸術祭の終了後、多くの航路で便数、運賃は元に戻された。そのことは、結局今回の航路対策が離島振興ではなく観光振興のためのものであったことを逆に印象づけることにもなり、島民に落胆や反発を惹起した面もある。

年金生活ですので芸術祭の時ぐらい船賃を安くしてほしいです。病院行くにも高く心配です。
(男木島 70代以上 女性)

芸術祭には大勢の方達が来られ、とても活気のある村になりました。今後も男木を気に入ってもらえ、定住してくれる方が居られる事を望みます。船の運賃、芸術祭の時のように安くしてもらいたいものです。 (男木島 70代以上 女性)

なお、つけ加えておこななら、今回多数の来場者があったことで、海運会社の売り上げは例年に比べて大幅に伸びた。そこで直島では自治連合会が収益の一部を地域に還元(運賃値下げなど)するよう交渉が行われた。しかし海運会社側は、燃料費の高騰で現行の運賃を今後も維持できるかわからないため、今回の増収分はそのための保険にまわらせてほしいと回答、自治会側も了承し、運行条件の変更は行われなかった。豊島のフェリー会社も例年に比べれば大幅な増収があったが、それでも経営的な採算はとれておらず、運行条件の改善どころかさらなる経営合理化が検討されている。フェリー利用者の一過的な増加などでは如何ともしがたいほど、離島航路が厳しい経営条件に置かれていることが逆に再確認されたといえる。

第2に、島内の交通対策についてである。期間中、直島と女木島では港と作品会場を結ぶバス路線の増強が行われたが、これは観光客の運送を目的としたものであり、島民の生活利用には影響をあたえていない。注目されるのは豊島である。豊島ではそれまで日に2便の福祉バスしか公共交通手段がなかったが、芸術祭を機に、土庄町が島内を循環するシャトルバスを整備した。期間中、豊島では福祉バスとシャトルバスが走り、島内の交通事情は大きく改善した。土庄町は芸術祭終了後もシャトルバスを存続させることを決定。しかしその代わり、福祉バスは廃止された。シャトルバスの導入により運行本数は以前よりも大幅に増え、また関連する雇用(運転手)も発生した。しかし他方で、福祉バスでは無償であったバス料金が有料化されたこと、運行ダイヤが島民の生活利用よりも観光客の利用便宜にあわされていることなどから、シャトルバスに対する住民の評価は賛否が分かれている。

最後に、これは当初から予測されていたことであるが、大量の来場者が船を利用したことで混雑や積み残しがしばしば発生した。島民の生活交通(通勤、通院、買物)が観光利用によって妨害されたことへの不満も、アンケート調査の自由記述で数多く聞かれた。

当初の予想を上回る観光客の数で、「島」が対応できていなかった。民間の会社とはいえ、四国汽船は島民の足であり、「医」の部分で利用する事、通学に利用する事がほとんどである。芸術祭中は海の交通の便が悪くなり、島の交通に支障をきたし、大きな声で誘導される住民の不満は日を追うごとに増大しました。それを除けばすばらしいお祭りで、とても誇りに思っています。これから先も続けてほしいと思います。船の移動は住民の生活です。 (直島 40代 女性)

以上のように、今回の芸術祭が島の定住条件に与えた影響はきわめて限定的であった。繰り返し述べてきたように、芸術祭は離島振興事業そのものではない。しかしそれが離島の活性化も事業目標の1つに掲げている以上、まったくの無関係とも言い切れない側面がある。

アンケートで下記のような意見が散見されたことは重く受けとめるべきであろう。交流・観光事業と定住対策の関係を制度的にどう位置づけるかは、今後の開催にあたって問われるべき重要な検討課題である。

終わっても後日につながる物がない様に思う。一時的な事だけではいけない。何かを残すことがあればよかった。何かわからないけど。
(豊島 60代 女性)

芸術祭開催中は日ごろ静かな島に大勢の人が訪れとても賑やかでした。三ヶ月間は船が増便して、運賃も安くなり、生活も少々活気がありました。が、終わったら島民のために何が残ったでしょうか。経済効果？ それは大勢の人を運んだ海運会社と島外の飲食業社ではないでしょうか。それも島民は後回しにされたように思います。
(女木島 70代以上 女性)

5. まとめに代えて

直島と他の3島とでは、島の産業基盤や行財政的条件、学歴や職業などの住民属性、アート事業の経験の有無といった点で大きく異なっている。そのため、当初筆者は芸術祭は直島で比較的スムーズに受け入れられ住民の理解も得やすいだろうと予想した。逆に、高齢者が多く、地域の社会経済的条件が脆弱で、アート事業の経験も皆無な他の3島では、住民の混乱や反発が大きいのではないかとの想定があった(室井 2010)。しかし、むしろ結果は逆であった。以下、分析から明らかになった要点を整理し、若干の提言を行っておきたい。

社会的交流と地域づくり

芸術祭に対する住民評価を規定した最大の要因は、対外的な交流の有無である。近年ではかつてのリゾート開発型観光が批判的に見直され、ツーリズムにおいて交流やふれあいといったソフトな要素が重視される傾向があるが、そのような要素はホスト側の地域社会でも重要な意味をもつことが明らかになった。ただし交流の内実に関してみれば、アーティストやボランティアが果たした役割が大きく、観光客との交流は相対的に希薄であった。住民と観光客との望ましい関係をどう構築していくかは、今後に残された課題といえる。住民とボランティアとの交流に関していえば、交流が芸術祭終了後も継続し、かつ活動内容も芸術祭絡みの事業に特化せず広く地域行事の支援へと幅を広げつつあることが注目される。このことは今回の芸術祭の最大の成果として正当に評価されるべきであろう。

県の事業評価との齟齬

逆にいうと、経済効果の有無が住民の芸術祭評価に与えた影響は必ずしも大きなものではなかった。このことは県の事業評価との対比で捉えておく必要がある。県の事業評価で重視

されたのは何よりも地域経済への効果であり、かつそこで想定されている「地域」は主に香川県全域のことであって、離島という地域へのまなごしは副次的であった。この点で、県と住民の間には芸術祭の地域事業としての捉え方に少なからぬ齟齬があったように思う。アートプロジェクトで「地域の活性化」が目指される際、対象とされている地域とはどこのことなのか、活性化とはどういう意味なのか。今後のイベント開催にあたっては、ステークホルダー（利害関係者）間でこの点に関する認識の共有が図られるべきである。

定住対策との関連

上記の点とも関連するが、今回の芸術祭が島の定住条件に与えた影響は、男木島の交流館の件を除けば、きわめて限定的であった。もっとも、そのことをもって芸術祭を否定的に評価することも難しい。芸術祭のような形での離島活性化事業と、従来の離島振興事業の関係が不分明であるからである。もちろん、芸術祭のようなアートイベントに法的な位置づけはない。しかし、自治体の創意と工夫で両者の間に何らかの関連性をもたせることは可能であるように思う。いずれにせよ、次回開催にあたっては芸術祭と定住対策との関連が自覚的に問われるべきである。そしてこの点で前提となるのが、離島住民の芸術祭に対する要望の汲み取りである。今回、芸術祭を企画推進するにあたり大規模な実行委員会が組織されたが、そこに会場となった離島は入っていない（表1参照）。離島が所属する自治体はメンバーに含まれているが、一部離島の場合、離島と自治体の社会的距離は大きく、離島の要望が自治体の参加によって反映される保証はない。事業の実施にあたっては通常以上に島民負担（生活交通への支障やごみ処理等）が強えられることを鑑みても、島民（具体的には、島の自治連合会）が実行委員会の正当な構成メンバーに位置づけられ、単なる動員や協力ではなく、事業の企画段階からの参加が制度的に保証されて然るべきではないか。

離島のサステナビリティと観光

これまでの分析で、今回の芸術祭は男木島で最も大きな成果をあげた一方、直島での成果は乏しかったことを強調してきた。しかし地域のサステナビリティ（持続可能性）という観点からみるなら、最もその条件に恵まれているのは直島であり、逆に条件が厳しいのが男木島や女木島である。その意味では、男木島で成果が大きかったことを手放しで褒め称えることはできないし、逆に直島で芸術祭の評価が低かったことが安易に批判されるべきでもないだろう⁸⁾。離島の住民にとって何よりも重要なことは、島での安定した生活が維持されることなのである。見方を変えるなら、あえて観光に頼らなくても生活できる地域こそが本来的には望ましいという言い方も出来よう。現実はその単純なものではないが、観光や交流を地域づくりの貴重な機会として受けとめる一方で、そればかりに過度な期待を寄せるのではなく、地域の既存の産業的条件や生活課題との関連を視野に入れてそれを相対化するというスタンスも重要である⁹⁾。ホスト社会の住民にとって、観光・交流事業は定住対策に取って代

わるものではなく、定住対策を補完する役割を担うことで初めて意味をもつのである。

注

- 1) こえび隊(ボランティア)には 39 都道府県からの参加があった。割合で見ると香川県(38.5%)と岡山県(16.5%)が多くを占めるが、首都圏や関西圏からの応募も少なくなかった(東京都 9.5%、大阪府 6.0%、兵庫県 5.5%など)。これら遠方からのボランティアには、芸術祭期間中、高松市内に寮が無料で開放されるなどの便宜が図られた。
- 2) 県の芸術祭所轄部局(瀬戸内国際芸術祭推進室)は文化振興課ではなく観光振興局に置かれたことも、県が芸術祭を文化事業というよりも観光事業(あるいは経済政策)として捉えていたことを裏づけるものであるといえる。
- 3) 日本銀行高松支店の試算によれば、今回の芸術祭が香川県にもたらした経済効果はおよそ 111 億円であり、旅客輸送に関わる交通産業の他、特に高松港周辺の宿泊業、飲食業で収益が発生したと推定されている。なお、実行委員会が実施したアンケートによれば、来場者の平均宿泊日数は 1.94 泊であり、前年度の 1.3 泊に比べて大幅に増加した。その一方で、芸術祭の来場者で県内の他の観光地も訪れたと答えた人はおよそ 4 分の 1 にすぎず(瀬戸内国際芸術祭実行委員会 2010)、他の観光地への波及効果の少なさが課題とされた。
- 4) 芸術祭終了後、県は展示会場となった島の住民を対象に芸術祭の事後評価に関するアンケート調査(回答数 513 名)を実施している。しかし調査結果については全体的な単純集計結果が提示されたのみで、島間の比較や評価の規定因に関する分析が一切行われていないなど、不十分な点が多いといわざるを得ない。
- 5) 会場となった島々の芸術祭開催前の受入準備状況に関してまとめたものとして、室井(2010)を参照のこと。
- 6) 直島の「専門・公務・教員」は 23.9%にのぼっているが、これには製造業の技術職や看護・福祉関係職への従事者が少なからず含まれると推測される。
- 7) 事前説明の有無は、住民の芸術祭への関与を規定する大きな要因ともなった。下の表にみるように、男木島、豊島、直島で、芸術祭について事前に説明を受けた人のほうが、そうでない人よりも、芸術祭に積極的に関与したことがわかる。

事前説明の有無と芸術祭への関与

		制作協力*	イベント*** 参加	資材提供*	関与せず*
男木島	説明あり (N=19)	0.38	0.67	0.52	0.1
	説明なし (N=15)	0.07	0.07	0.13	0.47
		作品見学**	制作協力*	イベント** 参加	関与せず**
豊島	説明あり (N=34)	0.83	0.14	0.43	0.11
	説明なし (N=45)	0.53	0.02	0.14	0.43

		制作協力*	観光客*** 案内	イベント*** 参加	関与せず***
直島*	説明あり (N=76)	0.05	0.35	0.46	0.14
	説明なし (N=179)	0.01	0.2	0.13	0.52

* p<.05 **p<.01 ***p<.001

8) 直島については、次回の芸術祭が住民にとってより有意義なものになるような工夫が検討されるべきであると考えているが、他方では、今回直島でみられた芸術祭に対する評価（関心といってもよいのかもしれない）の低さは、あえて観光に頼らなくても地域生活が維持されている証しとしてむしろ肯定的に評価できる側面もあるように思う。直島で芸術祭への関与度が低かったのも、住民が関与できるアート展示が少なかったことに加え、就業人口比率の高さも関係しているといえようし、そのこと自体は好ましいことである（逆に、他の島では高齢者の占める比率が高いゆえに、芸術祭への比較的広範な関与が可能になったという見方もできる）。アンケート調査でみられた以下のような意見は傾聴に値する。

「直島を活性化したとゆうが、そもそも仕事もそれなりにあるし、でも人口が減ってさびれてきていたけど、それなりでした。活性化とゆうのはどんなことを指すのでしょうか。人がどやどやとにぎやかにきて、店などがふえて、でも無法地帯のようなさわがしさです。もとの直島の人たちが、あらゆる意味でがまんしなくてはいけないような毎日が、活性化されたとよろこぶべきなのか疑問だ。」（直島 50代女性）

9) この点については、山本（2009）を参照のこと。なお、筆者が2009年に豊島と直島を対象に行ったアンケート調査によれば、島の生活課題として「観光」の優先順位はともにかなり低かった（下表参照）。

地域課題の優先順位

	豊島	直島
医療・福祉の充実	3.79	3.73
海上交通の改善	3.61	3.65
子育て・教育環境の充実	3.43	3.53
自然環境の保全・再生	3.42	3.51
農業の振興	3.48	—
治安・防災対策の充実	3.3	3.43
相互扶助の強化	3.39	3.3
漁業の振興	3.45	3.1
製造業の振興	—	3.35
公共事業の充実	3.28	3.26
島内交通の改善	3.3	3.1
環境事業の推進	3.08	3.24
伝統文化の継承	3.14	3.17
観光業の振興	2.89	3.08

注：豊島は有権者名簿で無作為抽出した 285 人、直島は電話帳で無作為抽出した 305 人に調査票を配布、順に 177 人（回収率 62.2%）と 250 人（回収率 82.0%）の回答を得た。数値は、「きわめて重要」=4 点、「まあ重要」=3 点、「それほど重要でない」=2 点、「ほとんど重要でない」=1 点に数値化し、平均値を算出したもの。

この結果をもって観光の不要性を主張するつもりはないが、観光を単なる産業対策として位置づけるのではなく、地域の生活課題群とのトータルな関連性の中で観光がどのような意義なり可能性をもつのか冷静に見定め、その地の定住条件の維持改善に資するような観光事業のあり方を構想することの重要性を強調しておきたい。

文献

- 勝村（松本）文子他，2008，「住民によるアートプロジェクトの評価とその社会的要因―大地の芸術祭 妻有トリエンナーレを事例として―」，『文化経済学』第6巻第1号。
- 瀬戸内国際芸術祭実行委員会，2010，『瀬戸内国際芸術祭 2010 総括報告』。
- 室井研二，2010，「離島振興と観光―島の内側の視点から―」，『瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造』（平成20～21年度香川大学プロジェクト研究成果報告書），19-52。
- 山本大策，2009，「持続的ツーリズムの動向―英語圏を中心に―」，環境社会学会編，『環境社会学研究第15号』，139-152。

資料 1 調査票

瀬戸内国際芸術祭に関する意識調査

調査主体 香川大学瀬戸内圏研究センター
(代表) 本城 凡夫
(担当) 室井 研二
(連絡先) TEL087-832-1432
muroi@ed.kagawa-u.ac.jp
実施 2011 (平成 23) 年 3 月

調査へのご協力お願い

この調査は、瀬戸内国際芸術祭が開催地となった島の皆さまにどのように受けとめられているのかを把握し、地域を活性化させるための糸口を探ることを目的とした学術調査です。調査の実施については島の自治会の承諾を得ております。調査結果は報告書にまとめ、自治会にお返しすることをお約束します。お忙しいところ恐縮ですが、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

ご回答いただいた事柄はすべて数字化し、統計的に処理しますのでプライバシーの面で回答者の方々にご迷惑をおかけすることは絶対にありません。安心してご回答ください。

回答はかならず宛名の方ご本人がおこなってください。もしご本人がやむを得ない理由でご回答できない場合は、調査票の表紙にその旨をお記いただき、白紙のままお返してください。

回答方法は簡単です。設問文を読んで、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。質問内容その他、なにかご不明な点がございましたら、遠慮なく上記の連絡先にご連絡ください。

それでは、何卒よろしくお願い申し上げます。

問 1 芸術祭が始まる前、あなたは芸術祭に期待されていませんか。

1. 大いに期待していた
2. まあ期待していた
3. あまり期待していなかった
4. ほとんど期待していなかった

問 1-1 (問 1 で 1、2 と答えた方のみ) どのようなことを期待されておりましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 多くの観光客が訪れて島に活気がうまれること
2. 島に経済効果(雇用や特産品販売など)がもたらされること
3. 島外の人たちとの交流がうまれること
4. 島の魅力を島外に発信すること
5. 身近で芸術作品が鑑賞できること

問 2 芸術祭が始まる前、あなたは芸術祭の趣旨や現代アートについて何らかの説明をお受けになりましたか。

1. 説明を受けた
2. 説明を受けなかった

問 3 以下では芸術祭をふりかえってお感じになったことをお聞きします。まず、あなたは芸術祭にどのように関わられましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 作品やイベントを見学した
2. アーティストの作品制作に協力した
3. 観光客に地域や作品の案内をおこなった
4. ボランティア(小えび隊)のお手伝いをおこなった
5. 芸術祭関連の行事・イベントに参加・協力した
6. 芸術祭に土地、家屋、資材などを提供した
7. 芸術祭にとくに関わることはしなかった

問 4 島に展示された現代アートの作品についてどうお感じになりましたか。

1. 気に入った
2. 気に入らなかった
3. どちらでもない

問 5 現代アートは島の歴史や文化を表現しているとお感じになりましたか。

1. そう思う
2. そう思わない
3. どちらでもない

問6 芸術祭は島の生活にどのような変化をもたらしたとお感じですか。以下の各意見について、a～bのうちあてはまるものに○をつけてください。

- (1) 多くの観光客が訪れて島に活気がでた
- (2) 島に経済効果（雇用や特産品販売など）がもたらされた
- (3) 島外の人々と交流することに関心が高まった
- (4) 自分の島に対する愛着が強まった
- (5) 住民による島づくり活動が活発になった

- a. 大いにそう思う
- b. まあそう思う
- c. あまりそう思わない
- d. ほとんどそう思わない

問7 あなたには芸術祭を通じて新しくお知り合いになった方がおられますか。

- 1. いる
- 2. いない

問7-1（問7で「いる」とお答えになった方のみ）それはどんなかたですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1. 観光客
- 2. アーティスト
- 3. 子えび隊
- 4. 島内の人

問8 全体的にみて、あなたは今回の芸術祭が島に好ましい変化をもたらしたとお感じですか。

- 1. そう思う
- 2. そう思わない
- 3. どちらともいえない

問9 あなたは3年後にもご自分の島で芸術祭を開催したいとお思いですか。

- 1. 開催したい
- 2. 開催したくない
- 3. どちらともいえない

問10 島での生活についておたずねします。以下の問いについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(1) あなたには、島で日頃親しくつきあっている方は何人くらいおられますか。

- 1. いない
- 2. 1～4人
- 3. 5～9人
- 4. 10人以上

- (2) あなたは日頃、島の行事や取り組みに参加するほうですか。
1. よく参加するほうだ
 2. まあ参加するほうだ
 3. あまり参加しない
 4. ほとんど参加しない

- (3) あなたは今後、島にずっと住んでいたいとお思いですか。
1. ぜひ住んでいたい
 2. まあ住んでいたい
 3. できればよそに移りたい
 4. はやくよそに移りたい

- (4) あなたはご自身の島に愛着がおありですか。
1. 大いに愛着がある
 2. まあ愛着がある
 3. あまり愛着はない
 4. ほとんど愛着はない

問 11 最後にあなたご自身のことについておたずねします*。

- (1) あなたの性別は
1. 男
 2. 女

- (2) あなたの年齢は
1. 20代
 2. 30代
 3. 40代
 4. 50代
 5. 60代
 6. 70代以上

- (3) あなたは現在、どなたとお住まいですか

1. 一人暮らし
2. 夫婦のみ
3. 核家族（夫婦と未婚子）
4. 三世同居
5. その他（ ）

- (4) あなたはこの島のご出身ですか。それとも他所から移られてきた方ですか。

1. この島で生まれ育った
2. 他所から移ってきた

- (5) あなたの現在のご職業は

1. 農業、漁業
2. 建設業、石材業、製造業
3. 飲食店、宿泊業、販売業
4. 専門職、公務、教員
5. 各種サービス業
6. 年金生活
7. 主婦
8. その他の職業（ ）

資料2 自由記述回答

【豊島】

アートとはこのようなものなのか、あまり解らないが、池の中に羽の様な物はきれいだと思った。美術館其他色々あまり解らなかった。 (女 70代以上)

アートとはこのようなものかなあと思いました。高齢者にもわかるようなアート期待したい (3年後)。 (男 60代)

プライバシーが守りにくい。島民の足である船便に支障がある。マナーの悪い者も時々いる。きちんと挨拶できる人も多くいた (気持良いです)。 (男 60代)

島は交通が不便で若い方はいいけど年老いた人には気の毒でした。もう少し、バスの時間を考えてほしかったと思います。有難うございました。今後ともよろしく願ひいたします。 (女 70代以上)

ごみ箱をもっとふやして欲しい。 (男 30代)

正直な所、今回の芸術祭は、私自身参加したとはいえない。しかし、思った以上に、たくさんの島外の人々が島をおとずれ驚いている。3年後に芸術祭を計画しているそうだが、次回はどういうものになるのか楽しみでもある。 (男 40代)

船便について、土庄一宇野便、いつも買物等利用しますが、乗船できるのかな、と思った事があった (たくさんのお客さんでしたので)。この3ヶ月はたのしかったです。今度は、島の人たち、老人もふくめて、参加したらと思います (お手伝いもふくめて)。 (女 60代)

芸術祭を行うに当り、島内にトイレ等の設置をよくかんがえてください。島内を走るバス等のルートが芸術祭のルートにしぼられ島のよい所を見るルートがなかったので今後は島じたいのよい所を見て走るルートをかんがえて下さい。 (男 60代)

ボールペンを同封してくださりありがとうございました。今回、率直に、又、厳しいかも知れませんがアンケートに返答させていただきました。島で生活する私共は、船での交通は希望でするものでなく、仕方なくしています。「船賃が高い」とか「便が少ない」等々聞きましたが、島民の足の確保を充実していただきたい。観光客の為にしわ寄せが再々ありましたので、船会社の経営者がうるおうだけの芸術祭のイメージはいなめません。 (女 40代)

道のまんなかを団体で歩いていた観光客がうざかった。

(男 20代)

終わっても後日につながる物がない様に思う。一時的な事だけではいけない。何かを残すことがあればよかった。何かわからないけど。

(女 60代)

ボランティアで活やくしていただいた小えび隊の方たちの食事が手弁当だとききましたが、場所によってはなにも売っていないところもあると思いますので、何とか弁当の支給とかできないもののでしょうか？

(女 60代)

3年後の芸術祭が行われるなら

- ・バス停付近などトイレの設置、案内板の表示をわかりやすくしてほしい。今回は中学生の作った地図をたよりに歩いている人もおり、ムダに歩いている人みるとかわいそうだった(カラト清水霊泉のところのトイレもいっぱい簡易トイレがほしかった)。
- ・年寄りの人達がこの芸術祭で元気になったと思うし、私の両親も島外の人と積極的にかかわり、親達はいろんな人達と交流して今でもやりとりなんかもしていたりする。芸術祭に自主参加したりして！
- ・食事場所が少なくいつも一杯で困っている人をみかけた。
- ・バス無料はありがたかったけど、長く続く為には100円でも料金を決めてもよかったのではと思ったりする。

3年後の芸術祭が今回以上に成功すればと思う。

(女 20代)

- ・来島者は、マナーのいい方がほとんどだったように思います。
- ・子どもの来島者が少ない。ほとんどが大人ですね。
- ・「こえび隊のおかげ」だと思います。
- ・簡単な材料で作ったシンプルな作品に感動を覚えた。
- ・天気がすばらしく良かったことも成功の一因ですね(台風も来なかった)。
- ・無料バスの運転手(1人)荒っぽい運転をする運転手(スピードの出し過ぎと、道の中よりを走っていた)がいたことが残念でならない。むしろ、のんびりトロトロ走るようなバスがよいのではないのでしょうか。

(男 50代)

芸術祭に協力したかったが、どのように協力したらよいかわからなかった。自治会長に聞いても、町へ聞いても明確な答をもらえなかった。非常に残念だった。

(男 60代)

あまりに住民無視だったと思います。もう少ししっかり説明して、住民にも理解と納得をしてもらって用意をしてから開催すると良かったのに・・・と思います。せっかく来てもらっても、来た人も困るように思います。ここで静かに暮らしている人には少々迷惑です。

(女 30代)

期間中に人が多すぎて、来島した方々に充分島の生活を楽しんでもらう事が出来ませんでした（時間も船の都合などで制約された）。美術館ならその場所へ行って鑑賞するだけで良いのだが、広範囲を移動しなければならないという事に始まり、交通手段、食事と、来島された方も色々な煩雑さがあり、それをサポートするだけの絶対人数の不足が問題だと思います。されど、その期間がすぎれば必要なくなるというギャップの問題を処理しきれていないと思います。行政においても開催後については無関心かと。継続の難しさですネ。（女 50代）

芸術祭が終っても今だに島外の方が来島しております。三年先が待ちどうしい見たいに思います。（女 70代以上）

芸術祭期間中たくさんの若い方が島にこられてファッションを見るだけで楽しかったです。何も無い、不便な島を1時でも好んでくれてありがたく思いました。3年後が楽しみです。（女 40代）

来島する人が多く、病院（島外）に行く時、不便だった。（男 70代以上）

すばらしい美術館が開館され感謝していますが館内が冷たいです。何かいい方法はないでしょうか。豊島の住民は二度目からは対策出来ますが、島外の方はお困りではないかと思ひます。（女 70代以上）

初めて芸術祭が開催され住民も戸惑ったに違いない。しかし、後半になるとお互いが少しづつ慣れ、気軽に話しかけたり話しかけられたり、ふれ合う様になったと思う。あんなに沢山の人が島で行き来していたのに事故がなかったのがふしぎなくらいだ。そして島には医療の設備が余りないので心配だ。お客様が具合悪くなったとき間にあうのだろうか。将来、今後芸術祭がある様であれば「島のお接待」ごころをもう少し發揮したいと思ひます。（女 60代）

大ぜいの方が見学に来られました。（男 70代以上）

開催期間がもう少し長い方がよい。ボランティアの方は本当に御苦勞様でした！（男 50代）

次回もぜひやって頂きたいと思ひます。（男 60代）

豊島は他の島とは違つた大きな荷物を背負つてきました。産廢の島、ゴミの島といったイメージです。昨年の芸術祭のお蔭で全国から大勢の来場者があり、その結果アートも良いが景観のすばらしい島であるとの好評で本当によかつた。これで島の悪評も払拭されると思ひます。次回の芸術祭も引続き7つの島で開催されることが決定され本当にありがたいと思ひます。これからいろ

いろ課題があると思いますが島を元気にして活性化するために島民も一丸となって頑張るべきだと思います。(男 70代以上)

① 該当者の自己満足に過ぎない

② 根本的に島の活性化につながるかどうか分からない(男 70代以上)

交通機関(船)で乗れなくてこまっていた人を見うけました。(女 70代以上)

- ・多くの観光客が訪れ島に活気がうまれ島民も元気が出ているように思った。
 - ・これからも島の魅力をピーアールできればよいと思った。
 - ・身近で芸術作品が鑑賞できてよかった。
 - ・これから先、3年先にもっとすばらしい芸術作品が鑑賞できることをいのりたいと思います。
- (女 70代以上)

問4 気に入ったと回答しましたが、作品の中には気にいらぬ作品もありました。多くは気に入ったので①にしました。交流も限られた島の人達が多かったと思います。お年寄りの人達は、少し騒々しいと感じておられた。(女 50代)

都会の方が大勢出かけてくれて、たのしい島になりたいです。島外の事が少しでも多く気付き、小離島の淋しさを取りのぞき大きな心を持って、人となりの楽しさや社会の事をもっともって知りたいです。もっと早くアートが有ったら良かったなあと、元氣であったら三年後をたのしんでいます。私は生れ故郷が最高の島である事ねがっています。(女 70代以上)

あんなに人が来るとは思っていませんでした。豊島の人、景色のよさも解ってもらえて嬉しいです。自然の中に住んでいますが作品を見て心がなごみました。都会の人はもっとでしょうね。春になるとまた人がくるかなあーと期待しています。屋外の自然と調和したアートが気に入りました。(女 60代)

豊島は一泊してもらって、ゆっくりしてその生活を理解してもらえるところではないかと思えます。芸術作品もよいのですが、島の普通の暮らしぶりを味わって頂きたいと思えます。(女 60代)

荒れていた棚田の草木が刈り取られ、多くの田が復活したことは見ているだけでうれしいことでした。このまま保たれれば素晴らしいと思えます。外から訪れて下さった人々が、豊島を良い島と評価されたと聞いてうれしいことに思いました。こうしたイベントがなければ島外の人を訪れるチャンスはほとんどありませんから・・・。(女 70代以上)

芸術を見るももっとスムーズにお客に負担（待ち時間、場所が狭い、天候等）のならない方法を取るべき。来島される方々とのコミュニケーションの場がなかった。来島される方々は常に時間に追われている様子（スケジュールが密に組まれていた）

1. 交通

- 1) 来島人数に合うだけの船便を用意していなかった
- 2) 船便をお客の数に合せフレキシブルに対応していなかった（客数に合せ即対応できる体制にすべき）
- 3) バスの便を密すべし。待ち時間がある為、徒歩が目立った。
- 4) 天候に合わせて船、バスのステーションの構造をもっと考えるべき。暑さ雨天等に対応すべき（待ち時間が長い為。屋根、木かげがあれば良い）

2. 食事

事前に来島する形態がわからない為、食事に対する対応、特に食事をするべき箇所が少なかった。ステーション付近で軽食でも販売してあげたかった。

3. 豊島の本当に良きスポットをもっとアピールするべきだった

（男 60代）

【男木島】

学生ですが多忙であったために参加できなかったため、もう1度開催してほしいです。

（男 20代）

今回のアート作品展示は空家を利用したものがありますが、生活居住区の為、近くで生活している人にとっては非常にさわがしくおちつくことができません。これが一番の問題点であると思います。出来れば居住区からはなれた場所で展示してほしいと思います。作品展示場所で飲食店などはなおのことやめてほしい。又、警察のお世話になった事件、事故が3件程ありました。

今迄になかったことです。

（男 50代）

真夏に子えび隊がよくやっておった。女の子でもよくやったと思った。遠い所から来られていた女の子が最後に通りかかって明日帰ると言ってくれてご苦労さんと言っておいた。

（女 60代）

2年後にもぜひ男木島を会場にしてもらいたいと思います。又、島の文化や歴史を表現しているような作品があれば島民の愛着ももっと沸くと思います。

（男 70代以上）

芸術祭には大勢の方達が来られ、とても活気のある村になりました。今後も男木を気に入ってもらえ、定住してくれる方が居られる事を望みます。船の運賃、芸術祭の時のように安くしてもらいたいものです。

（女 70代以上）

男木島初まっこのこの芸術祭本当にすばらしかった。男木島が明るく楽しく美しくよみ返りました。私達も若くなった様な気持です。役員の方々本当にご苦労されました。これからも大変ですが頑張ってください。ありがとう御座居ました。
(女 70代以上)

協賛行事として下記の競技会を開催しては如何でしょうか。水泳大会、釣の大会、地曳綱、ミニマラソン等。
(男 70代以上)

最初はあまり分からなかったがアーティスト、小えび隊の方々の島民に対する態度にはすごく好感が持てました。本当に頭の下がる思いです。お陰様で今でも遠い所から遊びに来てくれ付合が初まっております。又この島で会えてにぎやかに仕事が出来、お手伝いが出来たらうれしいと思います。
(女 70代以上)

島に訪れた方々は広く日本中の人々や外国人も多く、初めて男木島に来た、がほとんどでした。どなたも「いい所ですね、でも大変でしょう」と生活の不便さを感じて話しかけて来ました。男木ファンもかなりいて、もう3回も4回も通って来たという人がたくさんいました。「男木がアート。どこを切り取ってもアートですね」と感動していました。今回の私の宝はたくさんの人達と親しくなったことです。「男木島の歴史と未来を考える会」はおかげでたくさんの人に知られました。
(女 60代)

とても島が明るくなってよかった。もっと有名人の作品もてんじしてほしい。そしたらずっと観光の人が来てくれるので。それか芸じゅつ家を志ざす人たちに自由に作ってもらおうとか。
(男 30代)

男木港、すばらしい交流館が出来ました。芸術祭開催のお陰で色々なアート作品に出会い感動いたしました。元気をいただきました。大勢の人々に出会ったこと友人が出来ましたこと、村中活気づいたこと……。大変勉強になりました。又次回芸術祭が行なわれること楽しみにしております。離島に灯りをもたらしていただき、島民は生き生きと輝いています。本当にありがとうございました。
(男 70代以上)

アーティストの人達の島の人々の交流が多数合った。
(男 50代)

今後協力したいが高齢者でお手伝い出来るかが心配です。3年後は80才に成ります。
(女 70代以上)

観光客のマナーについて指導及び注意等の徹底。
(男 60代)

ごみが大変でした。

(女 70代以上)

島外からたくさん来てくださった事はうれしいけど、私は今高松に仕事に出ています。ある日6時10分のさいしゅう便にのろうと思って船をまっていたら、女木島で芸術祭に来ているお客さんがのりきれなくてこまっているので男木島の人のはのらないでくださいと言われました。女木島のお客さんをのせてかえってから、さいしゅうびんにしますと言われました。仕事につかれて少しでも早くかえりたいのに、いくら女木にお客さんがつみのこしになっているからと言って、島内の定期までなくさないといけないのでしょうか。6:10便は高松さいしゅうです。このため家に帰るのが1時間おくれたのです。

(女 60代)

アートが始まって大勢の人が男木島へ来られてびっくり！おかげでテレビにもよく出て全々知らない人達が小さい七つの島を知ってくれてよかったと思う。期間中はとても熱くて全々外の島へは行く気になれなかったけど今度は時期を考えてほしいと思います。

(男 70代以上)

不燃ゴミの日に道に人がいっぱい困りました。

(女 70代以上)

庭の中まで入って来る。急に大声をあげて何度もびっくりする。狭い道にいっぱいになり通行出来ない事。

(女 60代)

- ・何彼と不自由な島に来て、都会の便利さを要求する大人がいる事に驚きました（観光客）。
- ・島民の親切心をアテにする人達の言動、不愉快。
- ・小えび隊の活躍には頭が下がります。感謝です。（しかし、小えび隊にもいろいろいましたが…）
- ・静かだった島には大きな波紋でした。今後、如何なるか見守っていきたいと思います。
- ・島があまりにも高齢化しているので、二年後が心配です。

(女 70代以上)

- ・船賃が高い。最終便をせめて芸術祭の時の便までのばしてほしい。
- ・アーティストの方達が時々来て、いろんな催し、行事に参加して頂いておりますので島にも変化が出て来ていると思います。

(女 60代)

年金生活ですので芸術祭の時ぐらい船賃を安くしてほしいです。病院行くにも高く心配です。

(女 70代以上)

- ・島の道が狭いため、島の人々の日常生活（荷物等を運ぶ）等に支障があった。
- ・島内の案内図が少しわかりにくいのがあって、観光客の方が迷っていた。
- ・芸術祭関連の記念切手等があればいいと思う（多くもとめられたため）。
- ・船の便をふやしてほしい。

(女 40代)

【女木島】

観光客と会話をしてもっと島のアピールをしたい。 (男 60代)

船の便をもっと増やしてほしい (多勢の観光客のため) (女 60代)

瀬戸内国際芸術祭の原点が見えにくいように思う。今回の芸術祭役員、関係者の祭りで、島民の祭には思わない。島民の肌を感じない所が多いのではないかと。上記、関係者は夢は達成されたと思う。多くの島民の心は晴れていない？ (男 60代)

船便がふえた事が一番でした。今後も是非お願いします。 (男 60代)

芸術祭の最中の賑やかな雰囲気とは比べものにならないくらい現在の島内。何か継続して(特に冬期)年中来客がある行事、店舗があっても良いかなと思います。 (女 70代以上)

ゴミの問題。休ケイ所の様な所を作ってほしい。ゴミ箱を多く置いて、後かたづけに、皆が協力をしてほしい。 (女 60代)

- ・お客さんが食事をする場所が少なかったように思う。
- ・お客さんのマナーは思いのほかよかった様に思う。
- ・展示している作品は私はあまり理解できなかった。もっと島にある物で作品を作ってみたらいいと思う。
- ・県外や外国の人といろいろ話しをして気づかなかった島のよさを再確認する事ができた。
- ・次回は島全体を使って船の上からでも目につくような物を作ってみたらどうかと思う。

(男 50代)

今回の芸術祭は予想をはるかに上回る90万以上の観光客で、県、市にしてみればさうとうの経済効果になったと思う。しかし、芸術祭に直接関わった、それぞれの島はどうだっただろうか。たしかにどの島もさうとうの人出でイベントとしては成功したのではと思う。しかし芸術祭の主旨とする「瀬戸内の海の復権とそれぞれの島の活性化」につながったとは現段階では言えないと思う。活性化と言うのは、その地域の定住人口が増えないと、活性化とは言えないのではないかと。今回の芸術祭は初回である事から定住人口が増えるという形はまったく見えない。しかし今回の芸術祭が、その起爆剤になる事には期待する。又、今回の芸術祭で、それにかかわったサービス業にとってはさうとうの収入につながったが、色々と負担を強いられた島民にとってなんの支援もなかったのが残念であり、島民に申し訳なく思う。 (男 50代)

芸術祭開催中は日ごろ静かな島に大勢の人が訪れとても賑やかでした。三ヶ月間は船が増便して、

運賃も安くなり、生活も少々活気がありました。が、終わったら島民のために何が残ったでしょうか。経済効果？ それは大勢の人を運んだ海運会社と島外の飲食業社ではないでしょうか。それも島民は後回しにされたように思います。しかし芸術祭が終わった後もいろいろな行事に参加して下さる小えび隊の方々、今も港に残るカモメ達が可愛いんです。三年後にはもっと芸術に興味をもって鑑賞したいと思っています。(女 70代以上)

女木地区は高齢者ばかりで何かとお手伝いしたくても出来ないのがじじつなので残念です。お客さんが来て下さるのは大変よろこばしい事ですが、女木地区は飲食店がないのでお客さんは多いに困ると思います。民宿があつて夏の間2、3ヶ月で利用出来ないのが事実でお客さんが困っているのも多々見かけました。若人がどんどん来て人口がふえたら女木島も変っていくと思う。そうなれば運航問題が考えられる。今のままでは高齢者とネコの島になってしまう。いろいろと考えてもらいたいと思います。(女 70代以上)

アーティストの作品制作、ボランティアのお手伝い等が出来なかったけれど芸術祭関連の行事、イベントには参加協力しました。公式ガイドブック、作品鑑賞のパスポートも購入して、主人と島内はもとより男木島展示場も回りました。全島回りきれなかったのが残念でした。(女 70代以上)

当初予想に反して女木島始まって以来最高の来島者を迎えられた。アーティスト、実行委員の皆さん、特にこえび隊の協力のたまもの。テレビ、新聞、印刷物の宣伝効果も多かった。実行委員会発表の来場者数県全体938,246人、女木島99,759人は数え方に問題があり、1人が複数の会場を見学した場合1部の会場入場者数を合算している。実人員は60%位ではないでしょうか。予想以上の来島者で交通機関、特にフェリー、バス会社等、多大な利益(収入)を得ている。宣伝費も使わず芸術祭の恩恵を受けている、特にバス会社は住民に多大の迷惑をかけている利益の1部を地元に戻元すべきです。またこえび隊にも何らかの処置が必要と思います。(男 70代以上)

子えび隊の教育をちゃんとしてほしかった。今まで家庭にいたりして社会にでていなかった方が多かったように思った。県外から来た方に対しての接客態度が悪いように思えた。3年後にもう一度開催するのなら、そこらへんを直してほしい。(男 50代)

或る一部の店には大いに良かったとの事でした。他の家々には何の変化もなし。芸術祭で船運賃安く成った事が良い。(男 70代以上)

もっともっと全国の人に島のよさをもっとよくしってくれたらよいと思う。(男 50代)

高松の孫が友達を連れてきた事が、うれしかった。(女 70代以上)

芸術祭期間中お多々の人達が来島され島も多いにぎわってました。しかし期間が終われば又しずかな島にもどり、もとのしずかな島になり、私もおおかた想像していた様でした。島の活性はない様でした。(男 70代以上)

多々の人が島に訪れて活気が出た。又外国人も多く来島し、片言の日本語を使っていて我々に話しかけて来たりして良かった。(男 70代以上)

私達は皆農家なのでそれぞれ畑仕事があります。芸術祭でいくら観光客が来られても交流したりお話ししたりする時間はありません。日々の仕事で追われて毎日クタクタです。昨年夏は特に暑かったのでウロウロ歩く客が目障りでした。(女 70代以上)

昨年の芸術祭は島に取って余り意義のあるものではなかったように個人としては思います。関係なされた役員の方々は〇〇(不明)人知れずお忙しかった事と思います。島に住んでいて、期間中は賑わいましたが、後に残ったものは何もない。三年後は年令も一段と年を取りますので大きな行事は個人としては静かな生活は好いのではと思います。(男 70代以上)

開催前にもう少し島民とのコミュニケーションを計り、島民参加型にしてほしい。(女 60代)

アーティスト、小えび隊 etc 島外の人達は島のため大いに協力、活躍してくれましたが、島の人々があまりに関心がなさすぎるため、積極的な協力、活動が出来なかった。島の人々への協力、説明が行き渡っていなかったのが非常に残念だったと思う。年令は重ねていても活躍の仕方はたぶん(?)あると思う。(女 40代)

【直島】

- ・町民の心の中にも「わが町を誇りに思う」気持ちが再認識されることとなって良かった。
- ・近いのに行った事のなかった他の離島に行く機会ができ、本町が交通や生活に恵まれていることを実感できた事と、他の島との人と触れ合う中で、離島ならではの素朴な人情味と向き合い、自分自身を見つめ直す良い機会ができたと思う。(男 50代)
- ・島間との航路の充実を3年後はさらに希望します。
- ・今後も直島にアート作品が少しずつでいいので増えていってほしい。(男 40代)

- ・ゴミが多くて片付に困りました（ゴミ箱が少なかった）。
- ・道路にいっぱいになって、地域の住民が遠回りする事が多かった事。
- ・無料のお茶出しが業者に迷惑をかけていたように思う。
- ・案内表示が少なすぎたように感じた。
- ・お茶よりゴミ回収のボランティアがほしいです。（不明 60代）

- ・観光地でない直島が現代アートで世界の直島と有名になり国内外からたくさんの観光客が来て、芸術祭の期間は島中が人、人であふれとっても活気があり、明るい元気な島にとっても嬉しく思いました。
- ・でも観光客のマナーが季節によってだが目にあまった。生活道路は特に良くなかった（地域によるかも）。
- ・又町内には瀬戸内海のおだやかな自然豊かな海をもっと整備して（特に釣公園等）海を愛し利用してほしいと思います。（男 70代以上）

島外に住んでいる子供達が休日を利用して帰省するたびに船の何十分も前に並ばなければならないし、車の積みのこし、他、高松方面では車の中に1時間（座れない為）。又、乗船の前も孫達が疲れると言っている。道路も道巾いっぱい歩く為、バイクなど危なく、バイクを押して通らなければならないなど。（女 60代）

観光客のマナーが少し悪い様に思いました。（女 50代）

観光客の方がもう少しマナーをよろしく。（女 70代以上）

芸術祭の期間中は住民にとって足である船に乗るために30分以上も前に港に行き並んだこともあります。家の前は大ぜいの人で車を車庫に入れるにも、たいへん困りました。人が道路いっぱい歩いて、車で畑に行く時も、あぶなく思った事も再々です。芸術祭が終ってもとの直島にもどった時は、ほっとしました。特に船便については考りよしてほしいです。（女 60代）

人がたくさん来られ、活気はあったと思われませんが、それ以上にマナーの問題、船の不便他、問題点がたくさんあったと思われます。（男 60代）

他人の庭を通り抜けをする様な事をしないで下さい。お願いします。（女 70代以上）

瀬戸内国際芸術祭はあくまでも期間中の芸術鑑賞であって期間が終われば賑わいも終わります。直島が活性化していくためには期間を利用して直島町自体が何をなすべきかを真剣に考えなく

ては祭の一時で終わってしまいます。国際芸術祭におんぶにだっこではなく直島町自体が何をなすべきかを考え実行する、行政の実行力の問題です。 (男 70代以上)

観光客のマナーの悪さが目だった。単車ではしっていても横一列に歩いてよけてくれず、こまった。 (女 60代)

瀬戸内国際芸術祭は、してもいいですが、四国フェリーの来る時、積のこしがたびたび有り、急いだ時に一番こまります。道路でも自転車が多く出るのはいいが、マナーがすごく悪い事も多くなく、本村の方は歩道一ぱいになり、毎日思っていました。三年後するとしたら、もう少し、いろいろと考えてから行動してほしいですね。 (女 60代)

車道を観光客の人達は車がきてもよけてくれません。 (女 30代)

観光客のマナーが悪い。 (男 60代)

観光客のマナーの悪さが少し気になった。小学生でもできている事ができていない。特に若い人達。 (男 20代)

観光客のマナーについて。人数の多い所は誘導や整理するなどして欲しい。狭い道もあり、その中で生活している方もいるので、さわがないなど・・・。 (女 30代)

観光の方のマナーが悪く、あちこちにゴミをされたり、いろんなものがぬすまれたり、スムーズに交通キカンが使用できなかつたりといろいろと迷惑をしました。島の風紀を乱されたくないです。何のためのものだったのか、今になっても疑問です。早くおわってほしかったです。もうしてほしくないです。 (女 30代)

直島の知名度は確かに上がったと思うが瀬戸芸で何らかの恩恵を受けた人はほんのひと握り。島で生活している者にはマイナスな事もあったのでは。たとえば、船。生活の足が観光客が多くて乗れない時も。観光客のマナーの悪さ。大きな事故がなかったのが幸だ。 (女 50代)

来島者が多く、住民の足が不自由になった。交通ルールが守れていない(歩行者)。 (男 50代)

交通に不自由な面がありました。バスの積のこしに相いました。 (女 70代以上)

- ・観光客のマナーが悪すぎる。
 - ・道路いっぱいになって車がクラクションを鳴らしてもどこうとしない！！（これは町民のほとんどの人が言っている）
 - ・もっとベネッセがちゃんとしないと事故にもつながる。
 - ・大型バスが片側車線にとめて、細い道から出る時は、右左から車が来てるかどうか分からない！！
- （女 50代）

ボランティアの指導又はポスター等バスガイド。道路がセマイので交通の指導を確実に指導してほしい。

（男 70代以上）

恩恵を受けたのは一部の人だけ。その他の人は迷惑を受けた、我慢していた人だと思う（船に乗れない、バスに乗れない、治安、ゴミ、etc・・・）。次回開催するのであれば、そこをクリアしないと、町民の理解は得られないと思う。

（男 20代）

島は活気づいたが島民にとってはふだん生活している所なので、船に乗れず、つみ残しになったり、交通量が増えたりして、大変だった方もおられます。次回開催するにあたり、その辺を配慮して頂きたいと思います。

（女 40代）

当初の予想を上回る観光客の数で、「島」が対応できていなかった。民間の会社とは言え、四国汽船は島民の足であり、「医」の部分で利用する事、通学に利用する事がほとんどである。芸術祭中は海の交通の便が悪くなり、島の交通に支障をきたし、大きな声で誘導される住民の不満は日を追うごとに増大しました。それを除けば素晴らしいお祭りで、とても誇りに思っています。これから先も続けてほしいと思います。船の移動は住民の生活です。

（女 40代）

国際芸術祭で、生活のペースを観光客のマナーの悪さにふるまわされた様に思う。道いっぱいに広がって歩いたり、車が通っているのに、よけてくれない。急に車が止まったりと、何度かドッキリとすることがあった。島の人達は、ボランティアでいっしょうけんめいもてなしていたのに・・・。今回は開催してよかったと心から思う様になればよい。

（女 50代）

道路を歩いて車が横を通っていてもよけてくれなかったり、港のプランターの花の中にたばこを捨ててたりした人がいました。

（女 50代）

交通マナー、ゴミのポイ捨て等、住民に迷惑のかからないように。せっかく開催したのだからみんなが良かったと思えるような芸術祭にしてほしいと思います。

（女 50代）

仕事で通勤（船）。観光客の多さに、少々、こまった。昔の、ゆっくりとした、直島がなつかしい。
(女 50代)

- ・観光客のマナーが悪すぎる！！
- ・乗船時（バス）、島民優先にして欲しかった。皆、かなり迷惑している。
(女 40代)

宮の浦に会場を2ヶ所か3ヶ所ふやしたい（本村、積浦に集中している為。次回迄に何とかしたいと思ふ）。
(男 70代以上)

- ・お茶出しのサービス（土・日・祭日）をされた事は大によかった事と思いますが、ある場所では700~800ハイ出たと喜んでいましたようですが、ジュース、ソフトクリームなどの売上げがさっぱりと聞きましたが、ボランティアで行っている人は、周囲の売上げのじゃまをせず程々に行って欲しいものです。
- ・宮ノ浦地区にもアートがあれば、船待ちの時間や食事も宮ノ浦地区にも呼ぶ事が出来、本村で長い行列が出来るのをふせぎ、両地区によいのでは、と思います。
(女 60代)

1番感じたことは観光客のみなさんによく聞かれましたが近くで食事の出来る所、泊る所を教えてください。三年後には、おいしく食事の出来るところ、1晩でも泊れる、そういった面に力を入れ、より多くのお客様に来ていただける様な直島になればいいなあと思いました。
(女 70代以上)

- ・交通マナーが悪い
- ・ゴミがふえる
- ・ヒッチハイクをもとめる観光客がいる
- ・船のつみのこしがある。不便
(女 30代)

仕事を持っている為、芸術祭にはほとんどかかわることはなかった。ただ観光客のマナーの悪さは年を重ねるごとにひどくなっているような感じを受ける。観光も良いことだが、島の中で日々の暮らしをしている者がいるということも考えてもらいたい。はっきり言うと、芸術祭が終わってホッとしている。
(女 40代)

マナーを守らない観光客が多すぎる。ゴミを家の庭に捨てられたり、車道を何列にもなって平気で歩いたり、勝手に庭に入ってきたり、二度と芸術祭なんかしてほしくない。治安も悪いし、のんびり、ゆっくりしていた直島がうるさくなってしまう。
(女 30代)

観光客のマナーが悪い。例えば、島の道路を自転車であれば2~3列になって走行したり、車の

停車位置が車の通る所で堂々と止まったり、町民の道路なのに何か勘違いしている気がします。それを改善しない限り3年後の瀬戸内国際芸術祭の開催はしない方がいいと思います。それは一部の観光客であって、全ての観光客に言うてはいませんが……。特に直島は今回7つの島の中で一番観光客が訪れた島ですが、町民バスが観光客ばかり乗車し、町民が乗れなくなっている点を改善して、観光客専用バスと町民だけが利用するバスを分けるべきだと思います。

(男 20代)

どこの観光地でも同じでしょうが、来客者のマナーの悪さには困りました。開放的な気分になるのも理解でき、最大限譲歩したとしても許しがたいことも多々ありました。個人のモラルに訴えるほかないのでしょうか？！

(女 40代)

島の足は船です。船に乗船する際につみ残しになったり座れなかったり大変でした。家のかぎもかけないで出かけられないようになりました。歩行者の道をいっぱいになって歩く事、島でも車は走っている、よけてもらえない。

(女 60代)

- ・四国汽船の乗客や車の積み残しがないようにお願いしたい。
- ・観光客の交通マナーが悪い人がいて交通事故が起きないかハラハラする事があった。

(女 60代)

バス・船が満員で積みのこしがあり、どこに行くのにもおくれで不便を感じた。 (女 60代)

瀬戸内芸術祭の開催で経済的に大いに潤った関係企業、業界等は、もう少し島民に対してサービス精神を発揮すべきであって、あまりにも利己主義が目についた。 (男 60代)

芸術祭の間の四国汽船の乗船が10分前でないと乗せてもらえないので時間には出ないしさんざんでした。特に車で出かける時は帰りは乗船出来ない時があり、もう少し直島の島民の事も考えてほしい所が多々あります。 (女 60代)

- ・来島者のマナーの悪さ (特に歩行者)。道路を一群となって歩いている。要所、要所の案内者の指導力がない～本村地区。
- ・町営バス定員オーバー～危険。港での案内整理。
- ・道路、道路脇のゴミ (煙草の吸い殻含む) を捨てないように。 (男 60代)

- ・島に民宿が多くできたので行事が終了後の経営が心配です。
- ・一般の町民の人々のボランティア活躍に感謝しています。 (女 70代以上)

1. 見学をするのに待ち時間が長すぎるのがたびたびあり、もう少しスムーズに見物が出来る様に一工夫が必要であると痛感している。
2. 船便に乗船できないことがあったので対策が必要と思う。
3. 観光客の一部にマナーの悪い人がいた。ごみのポイ捨て、せまい道路を横いっぱいになって歩いている。
(男 70代以上)

たくさんの人達が島に訪れてくれて島内は活気にあふれていました。でも現実・・・夜間の島内はドーンヨリいつもの島と変わらず暗～い町内、道路！！港周辺も暗く日が暮れて島内に来られた方は道路とかでキョロキョロしていました。
(女 40代)

今後も芸術祭を継続して行う場合には、島民の船便の確保など、日常生活の利便性を優先すべき。そのためにも来島者数の平準化するような工夫が必要。
(男 50代)

不便さを楽しむような余裕を来島者にはもってもらわないと、イベントの運営はうまくいかない。不便なことも一つの味わいであることを理解してもらう必要がある。
(男 40代)

島民の生活の足となっている船便について、開催中に利用しにくい状況が多々あったので、次回はその改善してもらわないといけない(たとえば、島民の証明をみせて、事前に乗船させてもらうなど)。
(男 30代)

- ・フェリーの本数を増やしてほしい
- ・海の駅からすぐ見える所に“地中美術館”“家プロジェクト”の矢印看板を作って欲しい
(男 30代)

町の対応の見直し。開催の時期。
(男 30代)

私は民宿をやっていますが芸術祭の終わった後、お客さんが来てくれない。コンスタントに来てほしい。ギャップがあります。
(男 50代)

うるさいだけ。出来れば大企業の○(?)設が良い。
(男 70代以上)

道路の横断のマナーが悪い。地図が解りにくいのかよく聞かれた(場所)。
(女 50代)

- ・観光客を見て思うことは、ほんとうにマナーの悪さです。自分自身もそうじゃないのかと反省しましたし、なさけなかった。
- ・一企業の芸術祭なのに自治体がふりまわされているようがっかり。

- ・直島を活性化したとゆうが、そもそも仕事もそれなりにあるし、でも人口が減ってさびれてきていたけど、それなりでした。活性化とゆうのはどんなことを指すのでしょうか。人がどやどやとにぎやかにきて、店などがふえて、でも無法地帯のようなさわがしさです。もともとの直島の人たちが、あらゆる意味でがまんしなくてはいけないような毎日が、活性化されたとよろこぶべきなのか疑問だ。
- ・直島の人たちの善意につけこんでいる観光客や商売をしている人たちにはがっかりだしきょうざめである。 (女 50代)

観光客が多かったがその割にはゴミなど少なかった様に思う。船便、バス便に不便なところがあった。思ったより外国の方は少なかった。なぜ？多くの方に島を知ってもらって嬉しかった (女 60代)

島に活気があったのはいいと思います。前にはほとんど店もなくさみしい感じの島でした。いろいろな建物や芸術品がふえたのはいいことだと思います。逆に人が多すぎて、落ち着いた生活は送れませんでした。道いっぱいに広がり、ゴミはあちこちに落ちていて、うるさい。夜も遅くまで人の声が聞こえて嫌でした。もう少しマナーを守ってくれるのなら開催してもいいと思いますが、今は開催してほしくないです。 (女 30代)

せっかく遠くまで来て頂いた来島者の方が満足して帰っていただけるよう、次回の芸術祭では不便を感じない交通システムを作って頂きたい。島の中のバスも乗り降り自由のフリーパスを導入すべきではないでしょうか。 (女 30代)

芸術祭の間、たくさんの人達が訪れたが、交通手だんの都合で、直島に上陸したら、そのまま、他の島に移動する船に乗るというのもたくさん見たので、その人たちに直島を見てもらえたかどうかと、思っている。ある程度、宿泊、飲食に関する店が出来、良かった部分もあるが、生き残って行けるかどうかの心配もある。婦人会やはなみずき等で、茶菓のサービスをする休ケイ所が作られたが、休ケイの場所はともかく、2度3度とそこを利用し、喫茶、食事処の利用をしない者も多いと聞き、商売のじゃまをしているのでは・・・と今も思っています。一度、疑問に思い尋ねたことがあるが、直島に良い印象を持ってほしいから…という答え。無償のボランティアを使い、町の経費を使って、地元の商売のじゃまをしたという思いがぬぐえない。 (女 50代)

人が道いっぱい危険でした。交通マナーを守って欲しいと思う。 (女 70代以上)

期待していたのに、あまり参加出来なかったことを後悔しています。仕事が忙しくて(いいわけかもしれませんが)、3年後は必ず参加します。 (男 50代)

直島町での経済効果はどれほどあったのか知りたい。 (男 70代以上)

芸術祭が終っても、島民の雇用などをもっと積極的に行えば島民の方ももっと意識や活動などが活発になると思います。 (女 20代)

観光客がうっとうしかった。自転車もてきとうにとめて通行のジャマにはなるし、とりあえずマナーが悪すぎ！！最悪 (男 20代)

- ・観光客が多過ぎて対応しきれしていない。
- ・マナーが悪い。
- ・島民をあてにしないで欲しい。 (女 50代)

芸術祭を行うのであれば、島民にそれなりに気をくばってほしい。たとえば・・・

- ・島民なのに船のつみのこしにあい、時間をロスする。
- ・船にのってもイスに座れない。
- ・島がいくら田舎だといえど、田舎にも交通ルールは存在します（道路の真ん中歩くな！）。
- ・島内に人があふれかえっており、身動きがとれない（車が通れない）。
- ・観光客が泊まる場所がなかったり、道に迷ったり、港に帰れなかったりすると、家にまでたずねて来て道等を聞いたり、あげくのはてには「おくって下さい」等と言う。意味不明。自分ではなんとかできないのなら、直島に来ないで欲しい。大変めいわく！！来るのであれば最低限のルールやマナーを守ってほしい。最低限これができないのであれば、次回の芸術祭は行わないでほしい。直島出ます！ (女 20代)

くる人のマナーが悪いです。家まできて〇〇まで送って下さいときたり、民宿に泊まっている人が夜12時まで大きな声でさわいでいる。 (女 40代)

- ・マナーの悪い観光客が目についた。
- ・人が多過ぎてフェリーに乗るのにも困った。 (女 20代)

観光客のマナーが悪すぎると思います。遊びに来るのであれば、自己管理はしっかりと行って欲しい。迷惑をかけないようにしてほしい。3年後、また行うのであれば、それまでに私は島を出ます。絶対反対！今のままでもたくさん観光客はいます！島民にとって、船は生活に必要な物なんです。乗れないと困るんです。 (女 30代)

船の積み残しがたくさんあったので、次回はそういうことがないようにしてほしい。 (男 50代)

- ・島の良い処は静かさと純朴である。あふれる様な観光客に無茶苦茶にされたくない。
- ・活性化とにぎやかさとは大きな違いである。
- ・島民に何か良い事があったと思いますか。一部関係者が良かっただけで他は迷惑するだけであつた。(男 70代以上)

- ・船の積み残し〈車・人〉
島民まで巻き込まれるのが困る。
- ・観光客のマナー
道路の真ん中を歩く等、主に交通マナーが悪い。

次の芸術祭は反省点を改善して、行っていただけたら嬉しいです。期待しています！！

(女 20代)

観光客により島の生活が不便になる(船便の積み残し、町内バス) (男 40代)

観光よりは芸術の島で行きたい。 (男 50代)

町内の交通がまひした(船の積み残し、バスに乗れない等)。また、観光客のマナーが悪い所が多々あった(道路の真ん中を歩く、自転車の通行が危ない)。 (女 20代)

交通網の整備、来島者のマナーの向上、案内マップの整備、について十分な対応をしてほしい。 (女 30代)

船の積み残し。旅行者の交通ルール違反で事故を起こしそうになったことがある。 (女 60代)

角屋近くでソフトクリームと宿(民宿)を営んでおります。ボランティアでお茶出しも大切な事とは思いましたが、自動販売機、ソフトクリームの売り上げがお茶出しボランティアの時だけ昨年(芸術祭前)より落ちて生活に困っているのはどうでしょう。生活のために店をしているものにとっては、ボランティアも考えて頂きたい！！ (女 50代)

利用者のマナーが悪い。車を車道横方へ止めず、真ん中に止めていたり、車運転の人は2列、3列横になって車通をはしったり、後ろから車がきてもチラッと見てよけようとしめない(歩行者に関しても同じ)。後ろを見ずに急に曲がったり夜でも道がわからなくなると窓からのぞいて(夕食をしていた)ノックもしないので、こちらが気がつくまでじーと見ている。歩行者が車道真ん中に出て、車を止め、港まで乗せて下さいとか(車道に出てこられると危ない)。

(女 40代)

- ・交通マナーが悪い。
 - ・船の積み残し。
- (女 40代)

- ・町内を見学する人のマナーが出来ない人が多くみられ町内に住んでいる人が気をつかわなければならない事が多い。
 - ・今までは家をカギしないで外出出来ていた島が、それが出来ない状況です。
 - ・車を運転していても、自転車で横並びになり、知らん顔していて、なかなか1れつになつてくれない。
 - ・自転車が、港の方にあつた事が有った。足がわりに乗っていったと思う。
- (女 60代)

- ・あの暑さの中、しんぼう強く各展示の前で何時間も順番を待っている人々に感動しました。
 - ・他の観光地と違って、アート見学という目的を持って来島されているのでマナーもよかったと思います。
 - ・ただ、帰りの船便を待つ港の混雑はなんとかした方がよかったと思う。
 - ・三年後に開催される時はもう一工夫した方がよいかも。
- (女 60代)

仕方がない事ですが町内のいたる場所にゴミが増えた。フェリーに乗船できない事があつた(宇野からの帰り、定員オーバーで)。島民位は優先的に乗船させてくれるなど何か対処してほしいです。

(女 30代)

観光客の方、全員では無いと思いますが、マナーが非常に悪い。ゴミをその辺に捨てて行ったりタバコのすいがらを捨てる人もいる。人の家の前で写真を家主の断りなく撮ってみたり、あいさつもろくにしないすごく感じの悪い方もいました。島民が逆に観光客に気を使う感じ。車が通る道路を知ってか知らずか、自転車はてきとうに駐車する。横一列になって通行のジャマになるしとにかく3ヶ月は最悪。3年後に開催なんてとんでもない。やめてほしいくらいです。

(女 40代)

老婆心ながら気の付いたこと。

- ・県の設営の案内所はいいところみだったが、島に渡っても入場制限があるともう少し判るように伝えるべきだったのでは。折角来て見れず不満を聞いた。
 - ・パスポートの件 パスポートを持っているから、直ぐに入場できる、見れると、思いこんでいた人は沢山居た、注意書に判るように大きく書いては、
 - ・宣伝テレビ(含む)芸術祭が終わると、全体が無くなると思つて居た人が多く宣伝の仕方に工夫が、
 - ・次の開催に船の便をフレキシブルに手配できるように、工夫を。
- (男 60代)

マナーの呼びかけを徹底してほしい。

(女 50代)

観光客のマナーが非常に悪く不快だった。自転車のとび出し、船や島内の混雑で島のお年寄りは外に出られないと嘆いていました。観光客には喜ばれていたが島の人々は迷惑に思う事が多かったと思う。ゴミのポイ捨て、人の庭に勝手に入ったり…。非常に残念に思いました。

(女 20代)

利用者が多くて船の積残しが出たり、交通マナーの悪い人々が多くて迷惑をしました。住民の生活があるという事も考えて頂きたいです。

(女 60代)

ウォーキングしておりますが、観光客に案内図が少なくてわかりにくいと良く云われた。空缶、ゴミのポイ捨てには困りました。道路をバイクで走っていると自転車で何台も逆走(右側)してくる。

(女 70代以上)

一部の観光の方でしょうか、道路を歩くマナーの悪いのにはヒョッコリしました。本村のバス通り、脇道を道路一杯になって歩き、少々クラクションを鳴らしても除けてくれません。又タバコの吸殻のポイ捨て、食べかすなどを建物の隅っこなどへポイ。見るだけでも腹が立ちます。いっそうの事、これを機会にポイ捨ては町の条例で罰金にでもすればよいと思いますがそうも行きませんでしょう。地元の方の吸殻ポイ捨て、パッケージのポイ捨ても多くあります。何とかならないものでしょうか。これは病気で直りませんね。

(男 60代)

観光客があまりに多い為、入場制限や見れないのは不満がでている。遠くから来るので考えてほしい。船の便も悪くたいへんだった。

(女 60代)

道一杯に歩き、島民の交通のさまたげになる。

(女 60代)

県の方針、進め方が島の自治体、行政の担当者うまく伝わらなく、ギクシャクした関係も生じてきていた。公演をする立場の側からすればどちらに相談し意見を聞くのかわからなく振り回された感じが微妙にあり、とまどう事もあった様に思います。

(女 60代)

船が積み残しが出たりして日常生活に支障が出たり、観光客が道路いっぱいになって車が来ても歩行者天国のようによけてくれないので困った。町政も観光方面に力を入れて、町民の生活に必要な所に税金を使って欲しい。町民専用バスもいいが、ものすごく経費がかかっていると思う。港のネオンよりも道路の暗い所に電灯をつけて欲しい。

(女 60代)

来られた方々のマナーが悪い様に思われました。高速艇の整理券が発行されているのを島内の人

が知らずに切符を購入に行くと整理券がないとのれません、との事があり、予定が変更になったりした事があります。島内の人への連絡事項がある場合は一報お知らせいただきたいと思いました。

(女 60代)

本村の狭い道路に観光客があふれ、住民の生活がおびやかされる。期間中は生活のリズムを変えざるを得なかった。

(男 50代)

観光客のマナーが悪いと思う。道いっぱいになって歩く。

(男 70代以上)

前回の瀬戸内国際芸術祭で島の不便さからくる観光客の方々からの不満の声がよく聞かれました。多くの観光客の方が一度に来島された為の混乱ではありますが、島にはちょっとした不便なことが色々あります。でもその中で町民は生活しています。色々反省すべきは反省し、次回に活かすことも必要でしょうが、このちょっとした不便さをもっと前面に出してもいいのではないかと思います。都会では決して味わうことのできない不便さを少しだけ味わってほしいと思うのです。そういう事をすべて含めての『アート of 島 直島』なのだから。

(女 60代)

自分は婦人会と、はなみずきの団体に所属しており、夏にはお茶出し接待をしたり、お花を咲かせて観光客の目を楽しませたりしました。お茶出しの時には、ちょっとしたさつまいものおやつを作っていっしょに出しました。お客さんに「おいしい」「これは何で作ったの？」と聞かれ、そこから会話が生まれ、楽しいひとときがありました。お花は毎日の水やりが思っていたよりたいへんでした。夏がいつもよりたいへん暑かったので、花より人間の方がしおれてかれてしまいそうでした。観光客の人のマナーの悪さは目につきました。道路で飲んだりたべたり、道いっぱいに広がって歩いたり・・・。

(女 60代)

ただ人だけ多くて住民にとっては迷惑。以前ののんびりした島に帰りたい。小豆島は観光の町、そちらに多くのイベントをもって行ってあげたら、と思います。

(女 60代)

観光客のマナーが悪い。ゴミがふえた(道の)。用心が悪くなった。

(男 70代以上)

多くの団体客がせまい道をイッパイ使用している。道路を歩く時は1列で通行し安全を確保するようにしてほしい。

(男 70代以上)

豊島へ行って、観光協会が電気自転車のレンタルをしていました。直島も電気自転車のレンタルをもっと積極的に行えば良いと思う。

(女 40代)

直島では普段から観光客が多いので、芸術祭により更に多くの人に来て、パンク状態だったよう

に思う。また、交通面でも島の住人が観光客過多のため乗船できなかつたりなど日常生活への悪影響もみられた。イベント自体は良いものだったが、住人の生活を乱さない配慮に欠けていたのは事実です。次回、芸術祭 2013 では、住民への配慮を忘れないで欲しい。 (男 20代)

私は何故楽しみにしていたにもかかわらず今回の芸術祭の作品を観に行かなかった理由を。私的には、芸術作品は、ゆっくり静かに観るものと思っています。毎日あれだけ多くの人が全国から来られて、どれだけの人が作品を理解して帰られたでしょう。短い時間で全部、一つでも多く観ようとあわただしく移動して、本当にアーティストの方々の表現が分かったのでしょうか。ただの観光として来られている方の中に入って観るのは気が進まず、とうとう行かず、終わってしまいました。それともう一つ、マナーの悪さです。何度も怒鳴りたいのを我慢した事か。島民の中には私と同じ思いをした人が多くいると思います。もう、人の多さ、マナーの悪さに、うんざりしただけの芸術祭でした。三年後に、又、あの思いをしないといけないかと思うと・・・。

(女 60代)

観光客数に対して、フェリーの便数や時間を考えないと、3年後に再び開催するならば、内外からの不満が多く出て、大変になると思います。 (女 40代)

地中美術館が特に混雑していたのだが、スタッフの誘導、説明がとても悪く、さらに混雑することに。期間中、何度か行ったがなかなか改善されていなかった。早く並んでいた人が後からの入場になるような誘導はおかしすぎる。フェリーでの積み残しも、日常生活でフェリーを利用する住民(島民)が使えないのはおかしい。次回も開催するならば、必ず改善して欲しい。

(女 40代)

私の家は家プロジェクトの角屋の前です。芸術祭以前より多くの観光客が来ていますが、現代アートを見に来る人は一般の行楽地へ行く人よりもモラル面で一段高い人だと思っていました。しかし芸術祭期間中あまりにも多くの人があると中には現代アートが何か分からずただ話題になっているので来たという人が数多く見られました。直島は道案内の標識がないという苦情を言う中年の人もかなりいました。もし3年後に同様の芸術祭を開催するのであればやはり直島が中心となる場所になると思われるので、今回以上の人々が来島すると予想されます。それには準備が必要です。海上輸送、島内輸送の充実、見学場所での行列の問題、食事処の用意などです。もう1つ開催の時期を天候のいいシーズンにしていかがでしょうか。私各島の作品をほとんど見学しましたが、直島以外の島の作品は数ヶ所を除いて今一つだったと思います。次回は作品の質の向上にも力を入れて下さい。 (男 60代)

定員オーバーで船に乗れなかった時はびっくりしました。都会のように次の便がすぐ来るわけでもなく、1時間も待つ事になりました。娘(島外にいます)も3~4回乗れなかったため次回は

そのあたりを考えてほしいと思います。又、島内の道路を歩行者天国の様に何列もで歩いている観光客に、車で通る時すごく迷惑でした。(女 50代)

買物や通院など普段の生活の足である船に観光客で混雑したり乗れなかったりするのには困るし、ゴミを散らかしたり勝手にあれこれ写真をとったりするようなマナーの悪い観光客もいる。観光産業や実行委員のようなものに関わっていない一般市民にとってはいつもより不便を感じるが多かった。(女 30代)

芸術祭をメディアで大きく取り上げられて、身近な人(関東方面)からも興味を持ってもらえたと思います。観光客も増え、島に活気が出たと思いますが、船が混んで島の人達が乗れなかったり、マナーの悪い人もいたり、改善点もあると思います。全体的に見れば、今まで、島について知らなかった人達にも知って興味を持ってもらえたという点と活気が出たという点では、よかったと思います。(女 30代)

観光客のマナーが悪い。(男 60代)

島のちあんがわるくなった。(男 60代)

マナーの良い観光客とマナーの悪い観光客の差が激しかった。特に道路を端から端まで防いだり、車が来ても全くよけようとしなない人もたくさんいました。(男 30代)

宮ノ浦の方にも後2ヶ所位作ってほしいです。(女 60代)

交通マナーが悪い。「生活道路の中央を無断停車、自転車や歩行者が通過時中央を通行して、島民の車等の邪魔に成る行為」事故がありました。海の駅「なおしま」の前で無断停車中の車に〇〇運送のトラックが追突を目撃しました。乗船時車両が海の駅「なおしま」指定駐車場からあわてて行こうとする傾向がみられました。柱に接触していたこともある。時間のゆとりを持ってほしい。(男 40代)

93万人・・・というのは、「ヤオチョウ」だと、テレビで言われていてかなりショックを受けた。人数の数え方の問題でそこまで言われるのかと。「ヤオチョウ」は辛い。確かにそれほど来ていないだろうと思ったが、でもたくさんの人が来てくれてとても嬉しかったのは確かな気持ちだ。(男 50代)